

令和6年度

# 事業概要

(令和5年度実績)

地方独立行政法人

栃木県立リハビリテーションセンター

# 2024



## 「ごあいさつ」

地方独立行政法人  
栃木県立リハビリテーションセンター



理事長 山形 崇倫

令和6(2024)年6月

令和6年度から、星野前理事長の後を受け、理事長を拝命いたしました。当センターの発展と栃木のリハビリテーションの更なる充実のために尽力しますので、よろしくお祈りいたします。

ここに、令和6年度の事業概要（令和5年度実績を掲載）をお届けいたします。

令和5年度は暗い話題の多い年でした。世界各地で戦争・紛争が発生し、今なお続いています。国内では円安と物価高が生活を直撃しているなかで、政治家の不祥事も数多く露見しました。本来、指導的立場であるはずの者が問題を起こし、それが露見すると逃げ回り、開き直る。日本の指導者としての矜持はどこに行ってしまったのでしょうか。日本の将来に不安を感じます。

年明け早々に起きた能登半島地震も大きな衝撃でした。犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、未だ復興に至らず、困難な生活を強いられている方々にお見舞い申し上げます。災害が多い日本でありながら、毎回、災害対策に不備があることを思い知らされます。当センターとしても、微力ながら日本災害リハビリテーション支援協会を通じて支援に行かせていただきました。今後もできることがあれば協力していきたいと思っております。また、それとともに、県内で災害が発生した場合の当センターの役割について確認、整備を進めていきます。

さて、当センターでは、平成30年4月の独法化と同時にスタートした第1期中期計画が令和4年度末に終了し、令和5年度から5年間の第2期中期計画が始まっています。第1期中期計画では、回復期リハビリテーションの充実などに力を入れ、実践してきました。しかし、コロナ禍の影響により、診療を制限せざるを得ないことも多く、目標達成できなかった項目もありました。収益も制限が多かった令和4年度は低下しましたが、令和5年度は回復してきています。

新たな第2期中期計画では、これまでの回復期リハの充実等の他に、以下の項目に力を入れていきます。まず、これまで実施してきた神経発達症の診療、地域との連携をさらに充実させていきます。その一環として、あまり行われてこなかった、学童期以降の児童・生徒に対する支援も行っていく予定です。限局性学習症（学習障害）や注意欠如多動症、軽度の自閉スペクトラム症などの軽度神経発達症では、学童期以降に学習の困難や集団生活がうまくいかないなどが契機となり発見につながることも多くあります。学校でうまくできていない子どもたちの状況を評価し、リハビリでの支援や心理カウンセリングなどを進めていきます。次に、成人のリハビリは入院して実施することが主体でしたが、外来で通院しながらのリハビリを拡充し、自宅生活をしながら訓練できる様にしていきます。また、コロナ禍で縮小していた自立訓練サービスについては、機能訓練や高次脳機能障害を対象とした生活訓練を進めていきます。

職員一同、一丸となって課題に取り組み、患者さんたちの支えになっていきたいと思っております。皆様方のご指導、ご支援をよろしくお祈りいたします。

# CONTENTS

## 第1 栃木県立リハビリテーションセンター の概要

1 設置の目的	4
2 沿革	5
3 各施設の内容	6
4 センターの組織	8
(1) 組織図	8
(2) 職員配置状況	9
(3) 役員名簿	9
5 経営状況	
(1) 栃木県立リハビリテーション センター中期計画の概要	10
(2) 目標とする指標の実績	11
6 主要器械備品	12
7 活動実施状況	13
(1) とちりハ病院研修会	13
① とちりハ病院研修会	13
② 出前講座	13
(2) ボランティア受入れ 及び職員による活動状況	14
① 受入れ状況	14
② 職員による活動状況	15
(3) 実習生等受入れ状況	15
(4) その他活動状況	16
(5) 各種委員会・会議	17

## 第2 医療センター

1 診療概要	18
(1) 概要	18
(2) 病床数と診療科目	18
2 各診療科（常設科）	19
(1) リハビリテーション科	19
(2) 小児科	20
(3) 整形外科	22
(4) 神経内科	23
3 地域医療連携室	24
4 薬剤科	26
5 検査科	28
6 放射線科	30
7 栄養科	32
8 リハビリテーション部	34
9 看護部	37

## 第3 こども発達支援センター

1 概要	39
2 スタッフ紹介	39
3 活動実績	39
4 人材育成への取り組み	43
5 実習生受入れ状況	43
6 今後の方向性	43

## 第4 こども療育センター

1 概要	44
2 スタッフ紹介	44
3 活動実績	44
4 人材育成への取り組み	47
5 実習生受入れ状況	47
6 今後の方向性	47

## 第5 障害者自立訓練センター（駒生園）

1 概要	48
2 スタッフ紹介	48
3 活動実績	48
4 人材育成への取り組み	52
5 実習生受入れ状況	52
6 今後の方向性	52

## 第6 医療安全管理

1 概要	53
2 各委員会等活動内容	53
3 過去5年間における 医療事故等について	55

## 第7 研究論文、研究発表等

1 論文及び著書	57
2 学会発表	58
3 講演	59
4 センター内職員研修	60
5 センター内研究発表	64
6 委員等就任状況	65
7 その他	67



# 第1 栃木県立リハビリテーションセンターの概要

---

## 1 設置の目的

当センターは、主に回復期のリハビリテーション医療や障害児医療を提供する「医療センター」、児童福祉施設である「こども発達支援センター」及び「こども療育センター」、指定障害者支援施設である「障害者自立訓練センター（駒生園）」で構成される複合施設として、心身に障害がある県民の自立と社会参加を促進することを目的として設置されています。

平成30（2018）年4月、権限の拡充とそれに伴う責任の自覚の下、自律的・弾力的で透明な経営を通じて、県民サービスの向上と経営の改善を図るため、県の組織から地方独立行政法人へ移行しました。

なお、障害者総合相談所については、平成30（2018）年4月以降も引き続き県直営の施設として運営されています。

### ○法人の名称

地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター  
（平成30(2018)年4月1日設立）

### ○法人の設立目的

心身に障害のある県民の自立と社会参加を促進する。

### ○法人の基本理念

私たちは、診療、訓練、社会参加に至る一貫したリハビリテーションを提供するとともに、地域のリハビリテーション実施機関等への支援に努め、心身に障害のある県民の生活の質の向上と地域生活への移行を促進します。

### ○法人の基本方針

- 1 私たちは、医療と福祉が一体となった複合施設の特長を活かし、乳幼児から高齢者に至るまでのあらゆる年齢層に対して、多職種連携による専門的なリハビリテーションを提供します。
- 2 私たちは、障害者総合相談所とともに、医療、社会、教育、職業といった各分野の関係機関と連携を図りながら、総合的なリハビリテーションを提供します。
- 3 職員一人ひとりの不断の自己研鑽の下、リハビリテーションに関する調査研究を行いながら、法人が有する知見や技術を地域に還元します。
- 4 全ての職員が経営への参画意識を持って、効率的で健全な病院・施設の運営に努めます。

### ○法人が設置する病院等の名称

栃木県立リハビリテーションセンター  
こども発達支援センター  
こども療育センター  
障害者自立支援センター（駒生園）

昭和27(1952)年11月	■ 身体障害者福祉法第11条に基づき、宇都宮市若草町に身体障害者更生相談所設置 ①
昭和35(1960)年11月	■ 児童福祉法に基づく肢体不自由児施設として、宇都宮市若草町に若草学園設置 入所定員100名 ②
昭和36(1961)年5月	■ 身体障害者福祉法に基づく肢体不自由者更生施設として、宇都宮市若草町に身体障害者更生指導所を設置
昭和48(1973)年4月	■ ①・②・③を統合し、身体障害医療福祉センターが発足(肢体不自由児施設 入所100名、母子入所15名、通所40名、肢体不自由者更生施設 入所50名、通所7名、重度身体障害者更生援護施設 入所60名)
昭和63(1988)年3月	■ 「総合リハビリテーションシステム構想」策定
平成13(2001)年9月1日	■ 身体障害医療福祉センターを引き継ぐとともに、リハビリテーション病院、心身障害児総合通園センターの機能を付加し、さらに知的障害者更生相談所を統合(吸収)して、宇都宮市駒生町にとちぎリハビリテーションセンターを開設(病院80床、肢体不自由児入所施設35名・親子入所5名、心身障害児通園施設 肢体不自由児40名・知的障害児30名、肢体不自由者更生施設 入所30名・通所10名、重度身体障害者更生援護施設 入所50名)
平成14(2002)年9月1日	■ 回復期リハビリテーション病棟の開設
平成18(2006)年4月1日	■ 肢体不自由者更生施設(駒生園)の管理運営を県直営化
平成21(2009)年3月1日	■ こども療育センターで人工呼吸器装着児の短期入所を開始
平成21(2009)年9月1日	■ 駒生園を障害者自立支援法に基づく、指定障害者支援施設に移行 自立訓練(機能訓練)、施設入所支援、短期入所を開始
平成22(2010)年9月1日	■ 高次脳機能障害支援拠点機関設置
平成23(2011)年10月1日	■ 駒生園で自立訓練(生活訓練)を開始
平成24(2012)年4月1日	■ 児童福祉法の一部改正により、肢体不自由児施設が医療型障害児入所施設に、また、肢体不自由児通園施設が医療型児童発達支援センターに、知的障害児通園施設が福祉型児童発達支援センターに移行
平成30(2018)年4月1日	■ 地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンターを設立 栃木県立リハビリテーションセンターは従前の病院・施設部門を担い、相談支援部門は新たに設置された県の出先機関「栃木県障害者総合相談所」が同所で引き続き運営 6階病棟(40床)の運用開始
平成31(2019)年3月1日	■ 栃木県難病医療協力病院に指定
令和2(2020)年1月1日	■ 5・6階病棟が回復期リハビリテーション病棟入院料施設基準1を取得
令和3(2021)年4月1日	■ こども発達支援センターで保育所等訪問支援事業を開始

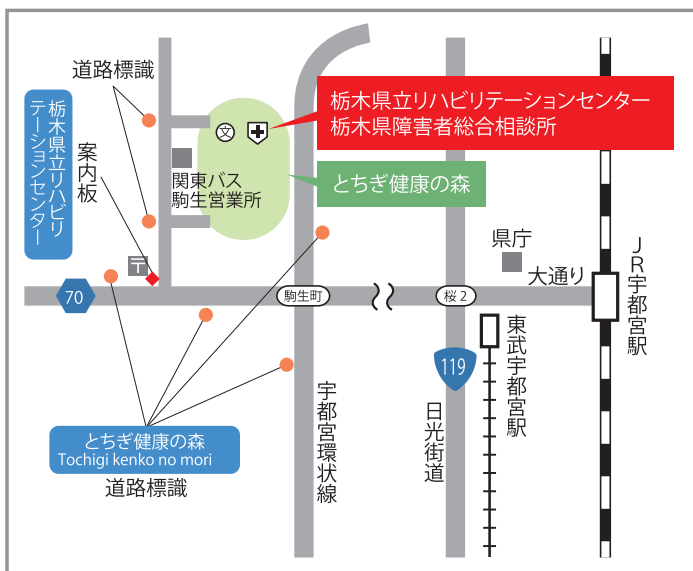
### 3 各施設の内容

- (1) 所在地 栃木県宇都宮市駒生町3337-1
- (2) 敷地面積 210,000㎡（栃木県との共有）
- (3) 建物の種類 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造地下1階、地上7階
- (4) 建築面積 8,663.59㎡
- (5) 延床面積 22,208.56㎡
- (6) 施設構成・運営形態等

施設の名称	種別及び定員	面積（㎡）	整備状況
医療センター	病床 120 床	13,664.49	H30 80 床から 40 床増床
こども療育センター	医療型障害児入所施設（病床33床） 入所 30 人 短期入所 4 人 （うち2人は人工呼吸器装着児等） 日中一時支援 4 人	2,166.91	H13 身障センターから移 転整備
こども発達支援センター	医療型児童発達支援センター 通園 30 人 福祉型児童発達支援センター 通園 30 人	1,973.11	H13 身障センターから移 転整備 H13 整備
障害者自立訓練センター （駒生園）	指定障害者支援施設 自立訓練 40 人 機能訓練 30 人 生活訓練 10 人 施設入所支援 30 人 短期入所 4 人	4,152.81	H13 身障センターから移 転整備

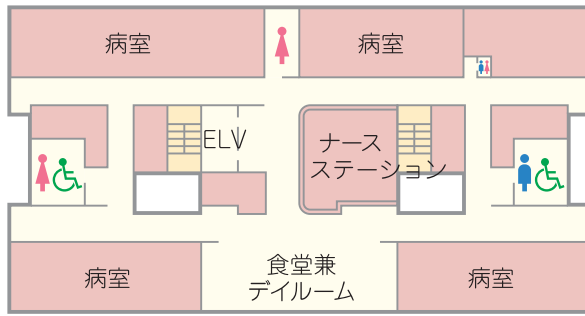
※身障センター：栃木県身体障害者医療福祉センター（昭和 48 年 3 月～平成 13 年 8 月）

#### (7) アクセス

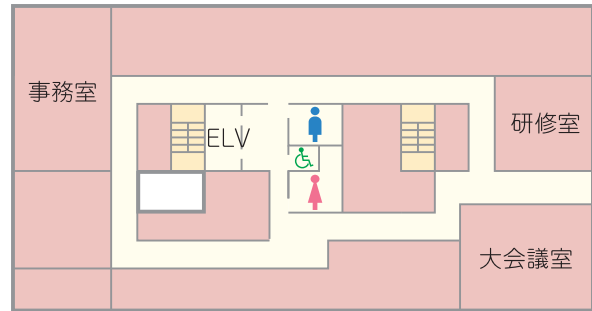


- 車利用 ●東北自動車道 宇都宮 IC から 約 15 分
- 東北自動車道 鹿沼 IC から 約 15 分
- 電車・バス ●JR 宇都宮駅から約 25 分  
関東バス（6 番・7 番乗り場）  
駒生営業所行き（健康の森経由）  
「リハビリテーションセンター」下車  
駒生営業所行き  
「終点 駒生営業所」下車
- 東武宇都宮駅から約 20 分  
関東バス（東武駅前 乗車）  
駒生営業所行き（健康の森経由）  
「リハビリテーションセンター」下車  
駒生営業所行き  
「終点 駒生営業所」下車
- タクシー ●JR 宇都宮駅から約 20 分  
3,000 円程度

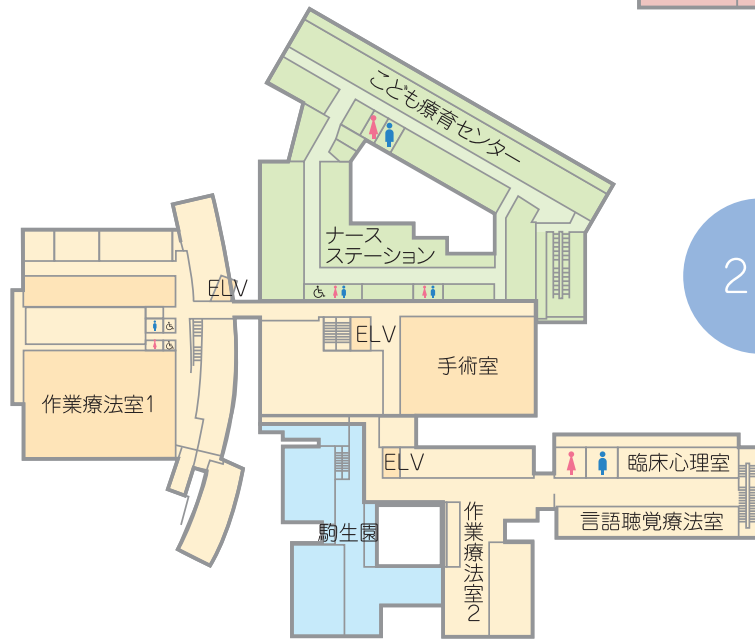
(8) フロアマップ



4~6階  
[病棟]



3階



2階

- : 医療センター
- : 子どもの発達支援センター、  
子どもの療育センター
- : 障害者自立訓練センター



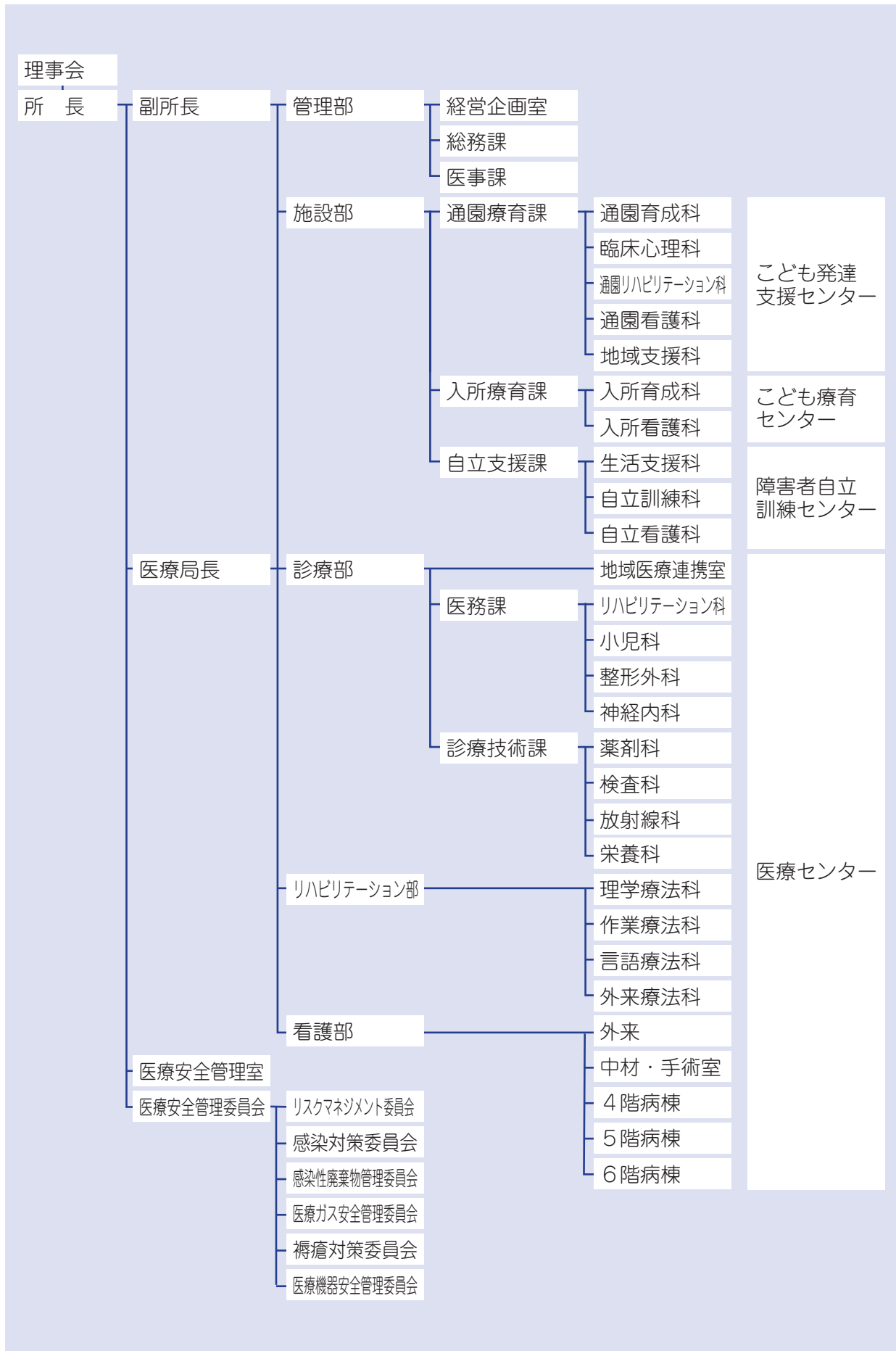
1階



## 4 センターの組織

令和6(2024)年4月1日現在

### (1) 組織図



## (2) 職員配置状況

令和6(2024)年4月1日現在

職 種	管理部	施設部	診療部	リハビリテーション部	看護部	職種計
医師	1		12			13 (0)
看護師		22	1		68 (5)	91 (5)
理学療法士		3		36		39 (0)
作業療法士		3		37		40 (0)
言語聴覚士		2		13		15 (0)
薬剤師			4			4 (0)
臨床検査技師			3			3 (0)
診療放射線技師			3			3 (0)
管理栄養士			3			3 (0)
保健師			1			1 (0)
社会福祉士		1	3			4 (0)
保育士		14 (2)				14 (2)
公認心理師		6				6 (0)
福祉(介護)		10				10 (0)
事務	22	5	1			28 (0)
看護助手					(8)	0 (8)
歯科衛生士			(1)			0 (1)
技能職		(1)				0 (1)
作業職		(2)				0 (2)
夜勤専門員		(3)				0 (3)
労務職	(3)	(1)	(1)			0 (5)
部門計	23 (3)	66 (9)	31 (2)	86 (0)	68 (13)	274 (27)

※常勤職員と同様の期限付職員を含む  
カッコ内は、業務嘱託員数(外数)

## (3) 地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター役員名簿

令和6(2024)年4月1日現在

役職名	区 分	氏 名	備 考
理事長	常勤	山形 崇倫	栃木県立リハビリテーションセンター 所長兼務
副理事長	常勤	渡辺 直人	栃木県立リハビリテーションセンター 副所長兼務
理事	常勤	船越 政範	栃木県立リハビリテーションセンター 医療局長兼務
理事	非常勤	竹下 克志	自治医科大学 整形外科学講座 教授
理事	非常勤	畦上 恭彦	国際医療福祉大学大学院 医療福祉研究課 保健医療学専攻言語聴覚分野 特任教授
監事	非常勤	白土 陽子	法律事務所コンフォルト 弁護士
監事	非常勤	佐藤 千鶴子	佐藤千鶴子公認会計士事務所 所長 公認会計士

## 5 経営状況

### (1) 栃木県立リハビリテーションセンター中期計画の概要

#### 【中期計画について】（地方独立行政法人法第 26 条、第 83 条）

- ・ 知事が定めた中期目標を達成するために、地方独立行政法人が知事の認可を受けて作成する計画。
- ・ 知事は、あらかじめ、議会の議決を経て中期計画を認可する。

#### 《主な内容》

**第1 中期計画の期間** 令和5(2023)年4月1日～令和10(2028)年3月31日（5年間）

#### 第2 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

- 1 質の高い医療の提供
  - ◆ 医療と福祉が一体となった施設の特長を活かした、多職種連携によるリハビリ医療の提供
  - ◆ 学齢期の発達障害等に対する診療体制の充実
  - ◆ 重症患者の受入強化や、退院後の外来リハビリテーション医療等の積極的な提供
- 2 安全で安心な医療の提供
  - ◆ ヒヤリ・ハットも含めた医療事故の原因分析や、研修の実施等による医療安全対策の推進
  - ◆ 新興感染症の感染拡大時など公衆衛生上重大な危機に備えた取組の強化
- 3 患者・県民等の視点に立った医療の提供
  - ◆ 患者や家族の立場に立った分かりやすい説明や助言等による医療提供サービスの向上
  - ◆ デジタル技術の積極的な導入による患者や家族の利便性の向上
- 4 障害児・障害者の福祉の充実
  - ◆ 肢体不自由児や発達障害児、医療的ケア児等への療育支援の充実
  - ◆ 障害者自立訓練サービスへのニーズの変化を踏まえた自立訓練サービスの強化
- 5 人材の確保と育成
  - ◆ 戦略的・効果的な業務運営が担える医療・福祉双方に精通した人材の確保と育成
  - ◆ 働き方改革の推進等による健康で働き続けられる職場づくりに向けた取組
- 6 地域連携の推進
  - ◆ 切れ目のないリハビリ医療の提供等に向けた急性期病院や地域の医療機関等との連携の強化
  - ◆ 住み慣れた地域でのリハビリ医療・福祉サービスの円滑な利用に向けた支援ネットワークの強化
- 7 地域医療・福祉への貢献
  - ◆ 実習生の積極的な受入れ等による医療・福祉関係者の資質向上に向けた支援の推進
- 8 災害等への対応
  - ◆ 訓練やBCPの継続的な見直し等による備えの強化や、医療従事者の派遣等による支援の推進

**第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置**

## 1 業務運営体制の確立

- ◆ 病院部門・施設部門にまたがる取組の充実による効果的・効率的な業務運営
- ◆ 提案制度の活用などによる職員の経営参画意識の向上

## 2 収入の確保及び費用の削減への取組

- ◆ 医師や療法士の適正な配置によるリハビリ医療の着実な提供
- ◆ 患者ごとの処方的確な予測等による医薬品・診療材料の適正な在庫管理

**第4 予算、収支計画及び資金計画**

- ◆ 中期目標期間累計及び各年度における経常収支の黒字確保
- ◆ 計画的な資金管理による経営基盤の安定化

**第5～第9 短期借入金の限度額、出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画、重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画、剰余金の使途、料金に関する事項****第10 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置**

## 1 施設・医療機器の計画的な改修・更新整備

- ◆ 施設の状況を踏まえた計画的な改修
- ◆ 地域の医療機関との共同利用も踏まえた医療機器の計画的な更新・整備

## 2 適正な業務の確保

- ◆ 法令や社会規範の遵守、適切な情報管理及び情報セキュリティ対策の徹底
- ◆ 内部統制の充実

**(2) 目標とする指標の実績**

指標名		R5(2023) 年度計画		中期計画	
		目標値	実績値	目標値	
1	リハビリテーション実施単位数 (単位)	一般病棟	5.3 以上	4.9	5.3 以上
		回復期病棟	8.0 以上	7.5	8.0 以上
2	発達障害外来受診者数 (人)		7,000	8,903	7,400
3	学齢児の心理面接実施件数 (件)		400	789	500
4	学校等への外来リハビリテーション実施情報提供件数 (件)		45	69	—
5	整形外科手術実施人数 (人)		10	9	15
6	重症患者の受入れ割合 (%)		45 以上	48.7	45 以上
7	退院後の外来リハビリテーション実施単位数 (単位)		1,620	3,352	2,120
8	NST (栄養サポートチーム) の介入件数 (件)		25	31	—
9	療法士及び看護師の学会発表件数 (件)		7	9	—

指標名	R5(2023) 年度計画		中期計画
	目標値	実績値	目標値
10 医療安全に関する研修会の実施回数（回）	6	7	6
11 医薬品安全管理研修会の実施回数（回）	5	5	—
12 患者満足度割合（％）	90.0	76.5	90.0
13 退院前在宅訪問指導（家屋調査）件数（件）	55	69	75
14 児童発達支援事業所等を対象とした研修参加人数（人）	90	170	100
15 医療的ケア児の短期入所及び日中一時支援受入れ数（人）	500	398	520
16 自立訓練終了後に一般就労等に移行した利用者数（人）	3	5	3
17 家族会の開催回数（回）	2	2	—
18 認定看護師数（人）	7	7	—
19 医師数（人）	12	13	—
20 療法士数（人）	92	91	94
21 職員満足度割合（％）	90.0	55.6	90.0
22 逆紹介率（％）	55 以上	55.2	55 以上
23 出前講座の実施回数（回）	20	26	20
24 実習生受入れ人数（人）	780	1,050	1,130
25 保育所等訪問支援事業契約件数（件）	15	24	—
26 BCP に基づく研修・検討会の実施回数（回）	2	2	—
27 病床利用率（％）	78.4	83.9	87.3
28 ジェネリック医薬品使用割合（％）	90 以上	96.8	90 以上
29 経常収支比率（％）	100 以上	107.5	100 以上
30 医業収支比率・修正医業収支比率（％）	70 以上	74.9	75 以上

## 6 主要器械備品

令和 6(2024) 年 3 月 31 日現在

機器名称	構造又は用途
外科用 X 線 TV 装置、X 線撮影装置、CR 装置、多目的デジタル X 線テレビ装置、全身 X 線 CT 診断装置(64 列型)、磁気共鳴映像撮影装置(MRI)、骨密度測定装置、内視鏡装置、体圧分布測定装置、全自動 PH/ 血液ガス・電解質分析装置、生化学分析装置、脳波計、超音波診断装置、ドライブシミュレーター、ストレングスエルゴ、歩行訓練装置、免架式リフト型歩行器、経皮的筋電気刺激装置 (B-SES)、ADL 訓練装置、ADL キッチン、全自動尿中成分分析装置、自動血球分析装置、心電図記録装置、誘発電位・筋電図検査装置、麻酔器、手術台、高圧蒸気滅菌装置、車椅子浴槽、POCT 用遺伝子検査機器 (PCR 検査)、拡散型体外衝撃波治療器	医療機器
電子カルテシステム、人事給与システム、調剤支援システム、画像ファイリングシステム	事務機器及び通信機器

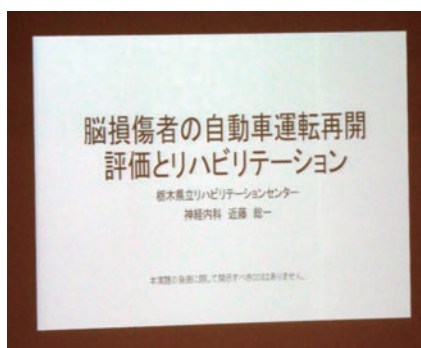
## 7 活動実施状況

### (1) とちり八病院研修会

#### ① とちり八病院研修会

とちり八病院研修会は、当センターが取り組む医療や福祉の事業を通じて、スタッフが習得した知識や情報を、介護サービス事業所や障害者支援施設、医療機関など関係機関の皆様へ還元し、障害のある方の生活の質の向上や社会参加に役立てていただくために開催しています。

期日・会場	内容（講師）	参加者
R5.11.6（月） とちぎ健康の森 講堂	テーマ：「自動車運転再開とリハビリテーション」 1 脳損傷者の自動車運転再開とリハビリテーション（医師） 2 自動車運転に必要な能力とは？（作業療法士） 3 当院におけるDS（ドライビングシミュレーター）を用いた運転評価と支援の実際（作業療法士） 4 運転再開相談の対応（保健師）	介護事業所 医療機関 行政機関等職員 105名



研修会の様子

#### ② 出前講座

出前講座では、関係団体等の要望に応じて、当センターのスタッフが団体等に出向き希望のテーマに沿った内容で講義をします。

期日・会場	内容（講師）	参加者
R5.4.25（火） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 30名
R5.4.28（金） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 18名
R5.5.8（月） 共生の丘グループホームオーリー	「発達障害児の理解と支援」（臨床心理士）	共生の丘グループホームオーリー 7名
R5.5.17（水） 栃木県シルバー大学校北校	「食生活の工夫」（管理栄養士）（リモート）	栃木県シルバー大学校北校 13名
R5.5.18（木） 栃木県シルバー大学校南校	「食生活の工夫」（管理栄養士）（リモート）	栃木県シルバー大学校南校 22名
R5.6.1（木） 栃木県シルバー大学校南校	「食生活の工夫」（管理栄養士）（リモート）	栃木県シルバー大学校南校 23名
R5.6.6（火） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 32名
R5.6.9（金） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 22名
R5.7.28（金） 栃木県立岡本特別支援学校	「発達障害児の理解と支援」（臨床心理士）	栃木県立岡本特別支援学校職員 50名
R5.8.23（水） 栃木県立わかかさ特別支援学校	「ことばが不明瞭なお子さんの見立てと支援のポイント」（言語聴覚士）	栃木県立わかかさ特別支援学校職員 70名

期日・会場	内容(講師)	参加者
R5.9.13(水) 訪問看護ステーション虹	「訪問現場での口腔機能療法」(言語聴覚士)	訪問看護ステーション虹職員 30名
R5.11.1(水) 居宅介護支援事業宮の里	「高齢者の栄養管理」(管理栄養士)	居宅介護支援事業宮の里職員 9名
R5.11.2(木) 青少年活動センター	「退院支援について」(社会福祉士)	アール居宅介護支援サービス 6名
R5.11.6(月) 共生の丘グループホームオーリー	「移乗介助」(理学療法士)	共生の丘グループホームオーリー 8名
R5.11.8(水) 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」(管理栄養士)	栃木県シルバー大学校中央校 27名
R5.11.9(木) 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」(管理栄養士)	栃木県シルバー大学校中央校 31名
R5.11.16(木) デイサービスぼかぼからんど	「歩行の介助をしよう」～基本の歩行介助～(理学療法士)	デイサービスぼかぼからんど 6名
R5.11.21(火) 栃木県シルバー大学校北校	「食生活の工夫」 (管理栄養士)(リモート)	栃木県シルバー大学校北校 19名
R5.12.13(水) あずま保育園	「ことばが不明瞭なお子さんの見立てと支援のポイント」(言語聴覚士)	あずま保育園保育士 30名
R6.1.16(火) 栃木県シルバー大学校北校	「食生活の工夫」(管理栄養士)(リモート)	栃木県シルバー大学校北校 19名
R6.1.19(金) 栃木県シルバー大学校南校	「食生活の工夫」(管理栄養士)(リモート)	栃木県シルバー大学校南校 25名
R6.1.24(水) 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」(管理栄養士)	栃木県シルバー大学校中央校 29名
R6.2.20(火) 栃木県シルバー大学校北校	「食生活の工夫」(管理栄養士)(リモート)	栃木県シルバー大学校北校 19名
R6.2.22(木) 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」(管理栄養士)	栃木県シルバー大学校中央校 29名
R6.3.8(金) 栃木県シルバー大学校南校	「食生活の工夫」(管理栄養士)(リモート)	栃木県シルバー大学校南校 25名
R6.3.25(月) 共生の丘グループホームオーリー	「てんかんと発作」(脳卒中リハビリテーション 看護認定看護師)	共生の丘グループホームオーリー 6名

## (2) ボランティア受入れ及び職員による活動状況

### ① 受入れ状況

(単位：人)

受入部門	具体的活動内容	実施日	延受入人数	摘要
障害者自立訓練センター 園芸研究会	園芸を通じて障害者の自立に向けた 支援を行う。	毎週水曜日	159	とちぎいやしの 園芸研究会



「とちぎいやしの園芸研究会」によるグリーンカーテンの設置

② 職員による活動状況

(単位：人)

内 容	具体的活動内容	実施期間
交通安全県民総ぐるみ運動	春と秋の年2回、児童の通学時間帯及び通勤時間帯に合わせ、交通安全の啓発活動を行った。	R5.5.11～5.19及びR5.9.21～9.29 (土日祝日を除く)



職員による通学時間帯の見守り活動

(3) 実習生等受入れ状況

(単位：日)

所 属	職 種	内 容	延べ日数					備 考	
			R1	R2	R3	R4	R5		
看護部	看護師	小児看護学実習	5	1	2	89	0		
		成人看護学実習	27	0	12	87	0		
		老年看護学実習	32	10	17	154	0		
		統合実習	8	32	1	42	32		
		基礎看護学	8	1	1	17	0		
		見学実習	0	0	0	32	74		
リハビリテーション部	理学療法士	総合実習	200	63	198	248	202		
		評価実習	19	0	0	0	20		
		見学実習	12	0	0	0	0		
	作業療法士	総合実習	157	109	49	110	278		
		実務研修	0	0	0	0	0		
		評価実習	58	26	44	142	149		
		見学実習	12	0	20	21	23		
	言語聴覚士	総合実習	0	19	54	55	108		
		評価実習	0	0	0	41	17		
		見学実習	0	0	0	0	10		
実務研修		0	0	0	33	0			
施設部	通園療育課	保育士等	実務実習	20	0	3	4	8	
		歯科衛生士		9	30	30	28	30	
	入所療育課	保育士等	保育実習	66	22	0	0	0	
		看護師	看護実習	0	0	0	0	0	
	自立支援課	介護福祉士等	介護実習	20	0	0	0	0	
			福祉体験学習	31	0	4	0	0	
計			684	313	435	1071	951		



#### (4) その他活動状況

##### ① とちりハいいね！カード制度

とちりハいいね！カード制度とは、良い行動（患者・利用者への対応、仕事への取組姿勢等）をしている職員に対し、それに気づいた職員から「とちりハいいね！カード」を交付し、職員間の相互承認の文化を醸成する取り組みです。この制度の導入により職員の職務へのモチベーションが高まり、サービスの質が向上することが期待されます。年度毎に交付枚数の多い職員を表彰しています。

<令和5年度いいね！カード受領数上位者>

所 属	氏 名	受 領 数
管理部	吉田 瑞久	8枚
診療部	近藤 総一	3枚
	菊池 史江	3枚
リハビリテーション部	石井 壮	3枚
施設部	加藤 洋子	10枚
看護部	岩崎 里枝	5枚
外部委託業者部門	若佐 恵理子	3枚

<令和5年度いいね！カード配付数上位者>

所 属	氏 名	配 付 数
施設部	重田 恭一	51枚

##### ② とちりハ提案制度

医療や福祉の質・安全の向上、患者サービスの向上、経営改善につながるアイデアや企画について、職員から提案を受け業務に反映することにより、中期計画の着実な実施の一助とすることを目的とした取り組みです。毎年職員に募集を行い、特に優秀な提案をした職員を表彰しています。

提 案 内 容	提 案 者
患者用 iPad の導入	リハビリテーション部 土屋 綾子
事務系ネットワークの無線化	管理部 坂井 瑛
療育センターにおける保育・療育等の質の向上	施設部 高橋 智茂子
	施設部 岡村 順子

## (5) 各種委員会・会議

名 称	目 的	実施内容（回数）
管理運営会議	センターの管理運営における重要事項を審議・決定する。	構成員：8名 開 催：月1回
所内連絡会議	管理運営会議での決定事項の伝達及びセンターの管理運営における必要事項の検討を行う。	構成員：46名 開 催：月1回
医療従事者処遇改善委員会	センターに勤務する医療従事者等の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画等の審議を行う。	構成員：10名 開 催：年1回
業者指名選考委員会	調達する物品及び役務の提供又は工事の発注等に係る入札に参加する事業者を審議し選定する。	構成員：4名 開 催：随時
衛生委員会	職員の健康の保持増進や健康障害防止対策等について調査・審議を行う。	構成員：11名 開 催：月1回
研修委員会	職員の職務能力の体系的かつ計画的な育成を図るための研修実施に係る事項について審議を行う。	構成員：10名 開 催：年4回
倫理委員会	職員から申請された医療行為及び臨床研究に係る臨床研究計画並びにそれらの成果の公表内容について審査を行う。	構成員：6名 開 催：随時
広報委員会	センター広報紙、ホームページ等の企画、編集、発行に関することを審議し実務を行う。	構成員：12名 開 催：年3回
情報システム管理委員会	情報システム機器の適切な導入、修繕、改良又は管理運用等に関して審議・決定する。	構成員：8名 開 催：年1回
苦情等対応委員会	センターの信頼及び適正性を確保するため、利用者等の苦情等を円滑に解決するための方策について協議・処理を行う。	構成員：7名 開 催：随時
診療報酬等改善・診療情報管理委員会	診療報酬の算定、請求事務の適正化等保険診療に関する諸問題について審議を行い、疾病統計の報告を行う。	構成員：19名 開 催：年6回
医療安全管理委員会	医療安全管理体制の確保及び推進に関する全般的事項について審議を行う。	構成員：9名 開 催：月1回
リスクマネジメント委員会	アクシデント・インシデント事例の原因分析を行い、当該事象の再発防止等の協議を行う。	構成員：21名 開 催：月1回
感染対策委員会	院内感染の未然防止及び発生時の迅速かつ適切な対処を行う。	構成員：32名 開 催：月1回
感染性廃棄物管理委員会	感染性廃棄物の適正な処理を確保するために必要な事項を検討・決定する。	構成員：20名 開 催：年1回
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保のための対策を講じる。	構成員：21名 開 催：年1回
医療機器安全管理委員会	医療機器の安全管理を図り患者の安全を確保するための対策を講じる。	構成員：20名 開 催：年1回
褥瘡対策委員会	褥瘡の発生防止のための体制を整備するとともに、褥瘡発生時に速やかに対策できるよう協議を行う。	構成員：13名 開 催：年2回
臨床検査適正化委員会	臨床検査の適正な管理および効果的な運用等に関して検討を行う。	構成員：9名 開 催：年3回
手術・輸血療法委員会	手術及び輸血療法の適正な運営及び安全管理体制等に関して審議を行う。	構成員：14名 開 催：年1回
薬事委員会	医療の質の向上を目的に、採用医薬品の採用や削除、適正な管理等に関して審議を行う。	構成員：8名 開 催：年4回
栄養管理委員会	栄養サポートチーム（NST）を含む栄養管理業務および給食業務の円滑かつ効率的な運営を図るため審議を行う。	構成員：13名 開 催：年2回
入院審査会	医療センターにおける入院申し込み患者についてICFに基づき、入院の適否等に関して協議を行う。	構成員：11名 開 催：週1回
障害者自立訓練センター	障害者自立訓練センターにおける自立訓練サービスの利用希望者の利用の適否の判定を行う。	構成員：13名 開 催：随時
利用判定委員会	障害者自立訓練センターにおける自立訓練サービスの利用希望者の利用の適否の判定を行う。	構成員：13名 開 催：随時
医療放射線管理委員会	診療放射線の安全利用に係わる管理のため検討を行う。	構成員：4名 開 催：年1回
新型コロナウイルス感染症対策本部	患者、利用者、職員等が新型コロナウイルス感染症に感染したとき等迅速かつ確かな対策を講じ、感染の拡大を防止する。	構成員：18名 開 催：随時
防災委員会	各種災害が発生した際、患者・利用者・職員等の安全を確保するための防災対策・減災対策の検討を行う。	構成員：7名 開 催：随時

# 第2 医療センター

## 1 診療概要

### (1) 概要

脳血管疾患、脊髄損傷、骨・関節疾患の主として回復期の時期の患者や小児神経疾患、小児整形外科疾患などの重度の障害を持つ者に対して、専門かつ高度のリハビリテーション医療を行うとともに、小児科治療、整形外科的手術治療を行っています。

### <医療の基本的コンセプト>

- ①主に運動器に障害のある乳幼児から高齢者に至るまでのあらゆる年齢層に対して、多職種連携による専門的なリハビリテーションを提供します。
- ②「疾患や障害を診るのではなく患者を診る」という精神で治療に当たります。
- ③リハビリテーション医療は原則として短期・集中型とします。
- ④診療、訓練、社会参加に至る一貫したリハビリテーションを提供するとともに、地域のリハビリテーション実施機関等への支援に努めます。また、医療、社会、教育、職業といった各分野の関係機関と連携を図りながら、総合的なリハビリテーションを提供します。

外来部門では、主にリハビリテーション科、小児科、整形外科、神経内科の診療を提供します。また、心身障害児の早期診断、早期治療に努めるとともに、地域療育推進事業や身体障害者自立支援事業に対する援助を行っていきます。

入院部門では、回復期リハビリテーション病棟である5階及び6階病棟は、リハビリテーション科、整形外科、神経内科の連携のもと、回復期リハビリテーションの充実に努めています。4階病棟では、整形外科で体幹・四肢の機能改善を図るとともに、障害児の感染症治療や小児神経疾患に対する小児科診断・治療を行います。リハビリテーション科、神経内科では脳血管障害等のリハビリテーションも実施します。また、一般病棟の特性を生かして、回復期リハビリテーション病棟の対象外の下肢骨折・上肢骨折や回復期リハビリテーション病棟の入棟期限を過ぎた患者のリハビリテーションも行います。

### (2) 病床数と診療科目

#### ① 病 床

4階病棟 40床 5階病棟 40床 6階病棟 40床

#### ② 診療科目

常 設：リハビリテーション科、小児科、整形外科、神経内科

非常設：消化器内科 毎週火曜日

歯 科 毎週火・金曜日

泌 尿 器 科 毎月第2金曜日・第4金曜日

皮 膚 科 毎月第2火曜日

耳鼻いんこう科 毎月第4水曜日

眼 科 毎月第4木曜日

## 2 各診療科（常設科）

### (1) リハビリテーション科

#### 概要

脳血管性の病気等を原因として生じた、主に回復期（発症から1～6カ月）の運動障害や言語障害等に対して診断と治療を行っています。患者の機能を評価し、今後の予測や訓練の目標を設定し、患者を中心としたチーム医療を推進しています。

回復期リハビリテーションにおける入院患者に対して、社会復帰後の日常生活を想定した具体的なリハビリテーションを集中して行っています。高血圧・糖尿病等の合併症に対する治療・指導も合わせて行っています。嚥下障害に対して、嚥下造影検査(VF)と嚥下内視鏡検査(VE)を行っています。高次脳機能障害を有する脳外傷患者等に対して高次脳機能障害支援拠点機関として入院治療を行っています。

また、外来では筋痙縮に対するボツリヌス療法も実施しており、車椅子（シーティング）外来では、最新の座位保持装置・車椅子の提供に努力しています。高次脳機能障害・失語症患者に対して言語療法士とともに治療を行っています。障害者手帳意見書・障害年金診断書の作成、脳血管疾患患者を中心とした装具作成も行っています。

#### スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

理事兼医療局長兼診療部長：船越 政範

リハビリテーション科副主幹兼科長：中澤 征人

リハビリテーション科副主幹兼医長：鈴木 尚

#### 活動実績

入院外来での診療の外に、月2回の障害者自立訓練センター（駒生園）におけるリハビリテーション科所内診察を行っています。障害者総合相談所の補装具担当から適宜相談を受けて、年1回の所内判定に参加し、高次脳機能障害支援拠点機関からの外来相談を適宜受け、精神保健福祉手帳意見書、障害年金意見書の作成を行っています。とちぎ高次脳機能障害友の会の顧問として、総会、講演会に参加しています。

#### 今後の方向性

栃木県内のリハビリテーション科専門医40名のうち、リハビリテーションセンターに5名が常勤で勤務し、リハビリテーション科専門医の自治医科大学・獨協医科大学・東京慈恵会医科大学の認定研修プログラムの研修施設として登録しています。リハビリテーション科の専門性を生かした施設として活動してきたいと考えています。

## (2) 小児科

### 概要

小児科は、小児神経疾患全般にわたる診断治療と療育に携わっています。患者の主な疾患は、発達障害では自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習症で、他には脳性麻痺などの小児の運動障害や小児てんかんの治療、神経筋疾患や代謝性疾患などがあります。内服治療や療育・リハビリテーションなどを個々の症状に合わせて提供するよう心がけています。

また、こども発達支援センターでは医療・福祉型の通園や卒園した子ども達へのフォローアップを、こども療育センターでは入所のほか日中一時支援や短期入所を、病棟入院では急性期を脱した後の短期・集中的なリハビリテーションや在宅移行支援などを行っています。必要に応じて、扁平足や側弯のご相談なども、院内の整形外科やリハビリテーションの専門医などと連携し行っています。小児科は様々な分野を含む診療であるため、単なる疾患の診療や治療・訓練・療育などだけではなく、患者とその家族が抱える多面的な問題を、当センターのスタッフだけでなく、地域・学校との協力関係の中で解決・軽減するよう努めております。

### スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

所長：山形 崇倫

小児科副主幹兼科長：桑島 真理

小児科医長：黒川 愛恵

小児科医師：増田 卓哉

### 活動実績

外来の診療では、月に延べ500件の定期的な診察と、月に約50例の初診患者の診療を行っています。週に1回はリハビリテーション部門とのカンファレンスを行い、個々のケースに応じた検査や治療の方向性をチームで検討しています。また、地域療育支援事業として年に2回の研修会で、発達障害や療育・リハビリテーションなど幅広いテーマに関する講演会を実施し、教育機関との連携事業として医療連携外来を個々のケースに対して行い、療育・教育の現場との連携に努めています。他にも、障害者手帳意見書、障害年金診断書の作成などを行っています。

### 人材育成への取り組み

自治医科大学の「小児神経専門医」研修認定施設となっており、小児神経専門医を取得するために必要な経験を積むことが可能です。令和元（2019）年度からは自治医科大学小児神経科から定期的に診療の援助を頂きつつ、小児神経専門医取得を目指している若手医師が研鑽を積めるよう教育体制を整えています。

また、自治医科大学子どもの心の診療科と連携し、令和5（2023）年度から「子どものこころ専門医」の研修連携施設となりました。子どもの心の発達を学ぶ施設としての教育体制も整えています。

## 実習生受入れ状況

小児科専門医・指導医が常勤しており、自治医科大学臨床研修センターや小児科学講座からの研修医の実習受け入れ体制が整っています。小児科および小児神経領域に興味のある医学生や医師の見学も受け入れています。

## 今後の方向性

現在も、紹介を受けるのは医療機関のみならず、市町村、健康福祉センター、教育機関など多方面にわたっていますが、今後はさらなる地域連携の強化を目標として、地域療育支援における活動を増やしていくと共に、県内の多様な療育や教育の現場で、小児神経科専門病院として積極的に相談・指導に応じ、連携を図っていきたいと考えています。また、「小児神経専門医」および「子どものこころ専門医」の自治医科大学の研修認定施設として登録されており、小児神経科の専門性を生かした施設として活動していきます。

### (3) 整形外科

#### 概要

整形外科は頭部以外の骨・関節・筋肉などの運動器の痛みや変形、機能障害を治療対象としています。その範囲は広く、骨折などの外傷、リウマチや変形性関節症などの関節疾患、頸椎・腰椎など脊椎の疼痛や機能障害、脊髄損傷、切断と義肢・装具、骨粗鬆症などの代謝性疾患、小児整形外科疾患、さらに麻痺に対する機能再建など多方面にわたっています。

入院では、交通外傷による多発骨折や大腿骨頸部骨折の術後、人工膝・股関節置換術後などに対して、運動器もしくは回復期リハビリテーションを行っています。上肢・下肢の切断に対して義肢の作製・訓練にも取り組んでいます。在宅復帰や社会復帰を目指し、専門医療スタッフと機能評価および目標設定を行い、チーム医療を推進しています。

また外来では、術後早期のリハビリテーションや障害児リハビリテーションを行っています。装具外来ではQOLの向上を目的として、補装具の提供に努力しています。

小児では、ボツリヌス療法や手術を行うことにより、運動発達を阻害する因子（痙性、変形、拘縮など）を取り除き、リハビリテーションと併せて本来もっている機能を最大限に引き出すことを目標としています。

#### スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

医務課長兼整形外科科長：石川 義久

副主幹兼整形外科医長：石塚 謙

整形外科医長：林 志賢

整形外科医師：朝田 淳史

#### 活動実績

延べ入院患者数 11,435 人

延べ外来患者数 2,010 人

年間手術患者数 9 人

栃木県障害者総合相談所の巡回相談への支援 年2回

栃木県立衛生福祉大学校保健看護学部看護学科専科での講義

#### 今後の方向性

多様化する症状やニーズに対して、最大限の機能回復と質の高い日常生活を獲得できるよう、多職種と連携を図りながらチーム医療を推進していきます。

患者・利用者からより信頼を得られるよう、研修や教育にも力を入れ、知識・技術や接遇の向上を図ると共に、安心安全なサービスの提供に向けリスク管理の意識を高めていきます。

宇都宮市近郊の連携機関との情報交換を密に行い、患者・家族に最良なサービスを提供できるよう、体制を整えていきます。

また、手術件数の増を目指し、自治医科大学の小児整形外科との連携を強化していきます。

## (4) 神経内科

### 概要

脳梗塞・脳出血などの脳血管疾患および脳・脊髄・末梢神経障害に伴う神経内科的疾患の入院および外来リハビリテーションを行っています。2019年3月に栃木県難病医療協力病院に指定され4月より神経難病外来を開設し、周辺の医療機関との連携の元に神経変性疾患等の外来リハビリテーションを行っています。

### スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

副主幹兼神経内科科長：近藤 総一

神経内科医長：江面 道典

### 活動実績

入院では、脳血管疾患患者を中心に年間120症例以上を扱っており、全身管理およびリハビリテーションの処方・指導や補装具の処方・調整、リハ部との勉強会などを行っています。神経内科的疾患の入院は年度によりややばらつきがありますが、概ね年間10例程度の入院があります。ギラン・バレー症候群や慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー（CIDP）などの末梢神経障害や視神経脊髄炎、パーキンソン病の急性増悪による入院リハビリテーションがありました。また、筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者のご家族のレスパイトを兼ねた入院リハビリテーションを行いました。

外来では、医療保険によるリハビリテーション対象神経難病患者の診察およびリハビリテーション処方、自助具や補装具の紹介・作成を行っています。疾患は多岐にわたっており、神経変性疾患のパーキンソン病や多系統萎縮症、ハンチントン舞蹈病、筋萎縮性側索硬化症、筋強直性ジストロフィー、脱髄性疾患の多発性硬化症、末梢神経障害のシャルコー・マリー・トゥース病などがあります。

また、日本脳神経学会および日本リハビリテーション医学会を中心に定期的に学会発表を行っています。

### 今後の方向性

当院は医療保険によるリハビリテーションのみを行っている事もあり、全身の機能が低下するような神経難病患者の多くは病状の進行と共に介護を必要とし、介護保険によるリハビリテーションに移行していくため当院でのリハビリテーションが途中で中止となる事が多いのが現実です。今後は回復期のみならず維持期および生活期のリハビリテーションを展開していけるように、病院の体制を整えていく必要があると考えています。

また地域のニーズを的確に捉え、今後さらに増加する高齢者の健康をリハビリテーションの面からサポートしていきます。



## 3 地域医療連携室

### 概要

地域医療連携室は、医療ソーシャルワーカー4名で対応しています。

主な業務は医療機関からの入院相談、入院患者に対する退院支援になります。病棟でのカンファレンスへの参加、本人・家族との面談を通して適切な場所へ退院できるように調整しています。

その他、医療福祉相談として入院患者・外来患者の療養上の困りごとに対しての相談の対応をしています。

### 1 入院相談

入院相談の窓口として、地域の医療機関の先生方、介護保険関連機関、医療福祉関連機関と連携をはかり、円滑な転院、入院できるように調整します。

### 2 退院支援

当センターに入院してから退院されるまで、患者さんやご家族が安心して生活が出来るよう退院後を見据えながら継続的に関わり、退院先を検討するにあたり、院内の多職種と協働して支援させていただきます。必要なサービスや諸手続き、社会資源について情報提供を行います。必要に応じて地域の関係機関と連携し、退院後の生活につなげます。

### 3 医療福祉相談

病気や怪我をきっかけとして生じた経済的・社会的・心理的な困りごとを、患者さん・ご家族が解決できるよう支援させていただきます。医療・福祉・介護の制度や医療機関、介護保険施設等についての情報提供を行い、必要に応じて連携を取らせていただきます。

### 4 地域連携活動

医療・介護や障害の関係機関の方々、障害者総合相談所（栃木県高次脳機能障害支援拠点機関）などの情報交換を通し、地域の関係機関と顔の見える連携の推進に努めています。

### スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

地域医療連携室長 高橋 恵子

他 社会福祉士 3名

## 活動実績

### 1 月別相談件数

	R1	R2	R3	R4	R5
実人員	2,376	2,243	2,085	2,168	2,232
件数	12,432	13,037	12,981	13,574	13,089

※入院・外来患者の電話・面接、院内及び関係機関との連絡調整、病院利用及び入院の照会等の件数を計上

### 2 カンファレンス等参加件数

(単位：人・件)

	R1	R2	R3	R4	R5
カンファレンス	396	603	591	605	675
入院時合同評価	473	466	408	448	475

### 3 脳卒中に係る地域連携クリティカルパス運用件数

(単位：件)

	R1	R2	R3	R4	R5
実人員	116	39	29	24	27

※実人員は入院月で計上

### 4 大腿骨頸部骨折に係る地域連携クリティカルパスの運用件数

(単位：件)

	R1	R2	R3	R4	R5
実人員	23	10	6	2	1

## 人材育成への取り組み

栃木県医療社会事業協会、日本医療ソーシャルワーカー協会、回復期リハビリテーション病棟協会など主催の研修会に積極的に参加し、知識や技術の習得・自己研鑽に努め、また、市町・関係機関主催の連携会議や研修会に参加し、関係機関との関係作りに努めています。

## 今後の方向性

- ・適切な時期に適切なリハビリテーションを受けられるよう、入院相談に応えます。
- ・患者さんの状態と環境に合わせた支援ができるよう、入院時評価やカンファレンスを通して院内他職種と共同して支援に努めます。
- ・地域研修会への参加や退院後の状況確認を通して、地域の医療・福祉・介護の関係機関と連携関係を構築し、社会資源を活用できる体制を整えることで、患者さんが退院後も安心して生活できるように支援していきます。

## 4 薬剤科

### 概要

薬剤科は、外来及び入院調剤、医薬品管理、医薬品情報管理・提供、薬剤管理指導などの業務を実施しています。

調剤業務は、調剤支援システムを活用し、外来及び入院処方について調剤を行っています。調剤時には薬歴に基づいた処方鑑査を行い、患者個々に対応したオーダーメイド調剤を実施しています。

具体的には、嚥下困難患者や経管栄養患者のために錠剤の粉碎や多種の散剤を混合するなど、個々の患者のニーズに合わせて服用しやすいよう心がけています。また、入院患者については原則一包化調剤を実施しています。注射薬は、内用薬等と同様に注射処方箋の処方鑑査を行い、患者ごと個別に取り揃えています。

薬剤管理指導業務については、入院時に患者に聞き取りおよび服薬指導を行い、持参薬について鑑別、薬剤服用歴を把握し、精査しています。当センター採用薬への切替時や処方変更時には必要に応じて服薬指導を行っています。また、入院中に薬の自己管理に向けての指導を行い、退院時服薬指導で患者が退院または転院後、適切に服薬管理出来るよう心がけています。

薬品管理については、物流管理システムにより医薬品供給と発注業務を一元化して在庫管理の効率化を図り、管理の適正化に努めています。さらに、保存条件に注意して使用期限などの品質管理を行っています。

また、医療費削減のために後発医薬品の使用促進を積極的に進めており、採用に当たっては、医療安全の面から品質等が適切であるか、安定供給が可能かなどについて十分に検討しています。

### スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

副主幹兼薬剤科長：宮下 直子

他 薬剤師 3名

業務嘱託員 1名

## 活動実績

過去5年間の活動実績

年 度		R1	R2	R3	R4	R5		
内 院 用	入	処方せん枚数（枚）	13,060	12,488	11,143	12,070	12,830	
		調剤件数	39,104	40,023	37,830	40,691	49,337	
	院	内服件数（件）	36,400	36,627	34,530	37,011	45,412	
		外用件数（件）	2,704	3,396	3,300	3,680	3,925	
		調剤延剤数	263,741	265,898	252,548	270,929	327,105	
	外 来 用	外	処方せん枚数（枚）	4,669	4,279	4,483	4,955	5,082
			調剤件数	8,483	8,147	9,221	10,629	10,686
		来	内服件数（件）	7,435	7,165	8,266	9,527	9,587
			外用件数（件）	1,048	982	955	1,102	1,099
			調剤延剤数	328,805	329,602	373,456	423,421	444,500
		院外処方せん発行枚数（枚）	46	106	141	217	223	
合 計	処方せん枚数（枚）	17,729	16,767	15,767	17,025	18,135		
	調剤数	47,587	48,170	47,051	51,320	60,023		
注 射	入 院	注射処方せん枚数（枚）	2,178	1,814	2,269	3,498	4,563	
		件数（件）	2,446	2,030	2,553	4,024	5,591	
	外 来	注射処方せん枚数（枚）	304	352	228	248	252	
		件数（件）	305	352	229	248	254	
	合 計	注射処方せん枚数（枚）	2,482	2,166	2,497	3,746	4,815	
		件数（件）	2,751	2,382	2,782	4,272	5,845	
服薬指導件数（入院患者対象）		208	40	46	509	781		
持参薬管理件数（件）		652	572	501	570	559		
後発品使用割合（％）		82.1	88.0	92.1	92.1	96.8		

## 今後の方向性

心身に障害のある乳幼児から高齢者までのあらゆる年齢層の患者に対し、薬学的観点から個々の患者の状態に応じた調剤を行っていきます。また、病棟での服薬指導を充実し、他院からの円滑な入院時服薬管理や退院後の的確な自己服薬管理に向けた患者への支援に努めます。

医薬品の有効性・安全性及び供給の安定性等に留意しつつ、後発医薬品の調剤割合の向上に努め、患者の経済的負担及び医薬品費のさらなる軽減を図ります。

## 5 検査科

### 概要

検査科では、外来及び入院患者の検体検査、生理検査を実施しています。

検体検査では、内部精度管理を実施するとともに、日本臨床衛生検査技師会臨床検査精度管理調査、栃木県臨床衛生検査技師会臨床検査精度管理調査及び各試薬メーカーの精度管理調査に参加し、検査結果の精度・基準を維持するとともに質の向上に努めています。

実施する検査項目は、重要性・緊急性およびコスト等を検討し随時見直しを行っています。本年度は、整形外科の入院患者を対象に肺塞栓症等の発症リスクの低減をはかる目的で下肢血管静脈エコーのスクリーニング検査を開始しました。

また、検査業務の他にICT（感染制御チーム）のメンバーとして、付加価値の高い情報提供に努めながら臨床支援も行っています。

### スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

副主幹兼検査科長：菊池 史江

他 臨床検査技師 2名

### 活動実績

#### 年度別検査 項目数

年 度		R1	R2	R3	R4	R5
検体検査	一般検査	12,867	11,074	11,026	11,602	11,432
	血液検査	22,181	18,854	18,601	20,597	19,972
	生化学検査	37,135	31,156	30,236	33,885	32,862
	血清検査	3,027	2,369	2,320	2,614	2,772
	輸血検査	16	18	20	15	24
	遺伝子検査	0	0	216	1,962	1,923
	細菌検査	401	306	294	368	384
	外注検査	3,124	2,092	2,087	2,656	2,541
	検体検査計	78,751	65,869	64,800	73,699	71,910
生理検査	心電図検査	706	589	547	589	573
	負荷心電図検査	5	62	16	23	17
	ホルター心電図	12	6	4	12	12
	呼吸機能検査	24	10	16	8	20
	脳波検査	56	49	51	45	47
	聴性脳幹検査	0	0	2	0	0
	神経伝達速度検査	44	32	4	0	4
	超音波検査	63	66	45	153	429
	生理検査計	910	814	685	830	1,102
計	79,661	66,683	65,485	74,529	73,012	

## 人材育成への取り組み

日本臨床衛生検査技師会・栃木県臨床衛生検査技師会、他の学会主催の研修会及び学会、検査機器や試薬メーカー主催の研修会などに積極的に参加し知識及び技術の習得に努めています。

## 今後の方向性

引き続き新型コロナウイルス関連の情報を早急に捉え、院内の感染対策に努めます。  
迅速で正確な臨床検査データの提供を第一に考え、医療サービスの向上に努力していきます。  
各診療科からのニーズに応えられるよう、知識及び技術の習得に努めていきます。

## 6 放射線科

### 概要

放射線科は、主に脳血管疾患、脊髄損傷、変形性股関節症、脳性麻痺・精神運動発達遅滞等の疾患児者の外来、入院、術前・術中・術後管理に必要な各種画像診断検査業務を実施しています。また、障害者自立訓練センター（駒生園）の入所者や県内特別支援学校在校生の結核検診、職員特殊健康診断（頸椎・腰椎病）等の撮影業務を実施しています。

当センターでは、患者が一人での更衣が困難な場合や検査台への移乗が困難な場合は、技師や看護師が介助を行っています。

緊張の強い脳性麻痺疾患児者の全脊椎立位撮影・足部荷重時立位撮影等には、2名の技師がチームを組んで撮影に対応しています。

重度障害児者、乳幼児、知的障害児者のMRI検査は、催眠鎮静薬を使用して熟睡した状態で検査を行っています。そのため検査時間枠内に終了しないことや中止になることもあります。

画像診断装置は一般撮影装置をはじめ、MRI（1.5T磁気共鳴イメージング装置）、CT（64列断層撮影装置）、多目的X線TV装置、骨密度測定装置、CR装置、パントモ装置等を設置しています。

また、令和2年10月から開始したMRI・CT等の共同利用は、地域医療機関の診療業務の充実に寄与しています。

### スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

診療技術課長兼放射線科長：米田 純子

他 診療放射線技師 2名

## 活動実績

### 過去5年間の活動実績

(単位：件)

		R1	R2	R3	R4	R5
X線撮影	入院	2,291	1,804	1,644	1,409	1,274
	外来	785	801	793	907	1034
	計	3,076	2,605	2,437	2,316	2,308
MRI 検査	入院	256	188	152	154	98
	外来	46	118(74)	197(161)	235(183)	300(239)
	計	302	306(74)	349(161)	389(183)	398 (239)
CT 検査	入院	519	496	412	530	512
	外来	19	38(12)	74(23)	142(30)	131(46)
	計	538	534(12)	486(23)	672(30)	643(46)
骨密度	入院	336	319	321	336	272
	外来	81	57	32	45	62
	計	417	376	353	381	334
X線透視	入院	43	26	19	39	19
	外来	5	3	1	0	3
	計	48	29	20	39	22
パノラマ	入院	4	9	3	15	11
	外来	1	0	0	1	3
	計	5	9	3	16	14
ポータブル	入院	163	67	78	80	78
	外来	3	1	2	0	0
	計	166	68	80	80	78
検診	入院	0	0	0	0	0
	外来	37	42	30	23	30
	計	37	42	30	23	30
CD コピー	入院	782	653	451	566	605
	外来	283	299	496	498	548
	計	1,065	952	947	1,064	1,153
読影依頼		172	213	315	419	440

( ) 内は共同利用の再掲

### 人材育成への取り組み

学会や、院外の研修に参加し、新しい知識や技術を習得し、自己研磨に努めています。

### 今後の方向性

患者の障害の状況に合わせて安全で安心な検査が出来るよう心がけていきます。

また各種研修会に参加し、診断価値の高い画像を提供することに努めていきます。



## 7 栄養科

### 概要

栄養科では、入院患者等の病態及び障害やリハビリテーションによる活動量を考慮した栄養管理業務、入院患者等への安全で個々に見合った適切な食事の提供を行う給食管理業務を行っています。

栄養管理業務では、栄養サポートチーム（NST）の事務局として多職種共同による栄養管理の調整を担うとともに、リハビリテーションによる活動量や疾患、摂食嚥下状態を考慮した栄養状態の評価検討を行い、患者個々に見合った栄養管理により、FIM 向上に努めています。

また、退院後の生活を見据え、栄養指導を通し、退院後も実行可能な方法を一緒に考え提案することにより、患者自らが「食事療法」の重要性を理解し、自己管理能力を高めることができるよう支援しています。

給食管理業務では、毎日の食事が患者の ADL の向上や健康づくりに寄与できるよう、臨床栄養学に基づく栄養管理の下、季節感のある食材を活かした献立や衛生的な調理・盛り付けにも配慮し、適時・適温配膳を行い安全で美味しい食事となるよう努めています。

### スタッフ紹介（令和 6 年 4 月 1 日現在）

副主幹兼栄養科長：柴田 純美

他、管理栄養士 2 名

### 活動実績

#### 1 多職種連携による栄養管理の実施

栄養カンファレンス、入院時合同評価、リハカンファレンス、個別支援会議、V F 検査等により、患者の栄養状態や摂食嚥下機能などを多職種で評価検討を行い、栄養管理計画やリハビリテーション総合実施計画に基づく適切な栄養管理を行いました。

#### 2 栄養サポートチーム（NST）活動

入院患者の栄養管理を専門的かつ的確に行い、リハビリテーションの効果を向上させることを目的に医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士で構成する栄養サポートチーム（NST）を設置し、令和 4 年 4 月より活動を開始しました。

入院患者 12 名、延べ 31 件に対し、経口摂取量改善や体重減少への対応、嚥下障害に対する食形態評価等の介入を行いました。

#### 3 栄養指導

入院及び外来患者などに対し、186 件の個別栄養指導を行いました。疾患別指導件数は糖尿病 42 件、脂質異常症 45 件、高血圧症 60 件、低栄養 9 件、嚥下障害 3 件、高度肥満 5 件、その他（腎不全、心不全、貧血、痛風等） 22 件でした。

障害者自立訓練センター（駒生園）入所者、こども発達支援センター通園児の保護者を対象とした集団栄養指導も行いました。

## 4 食事の提供

入院患者や入所児者、通所通学児へ年間合計 142,891 食の食事の提供を行いました。食事の提供に当たり、個々の栄養状態を評価し、疾患やリハビリテーションに見合った食事の提供を行いました。

また、ミールラウンドを通して、食形態や食物アレルギー、嗜好などの聞き取りを行い、個々に合わせた食事の提供に努めました。

## 5 チーム医療への参画

栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム、感染対策チーム、骨折予防チームメンバーとして活動しました。

## 6 食事の満足度向上のための取り組み

食事が治療の一環であることや提供されている食事内容の理解を図るため、入院時に患者へ食事内容の説明を実施しました。

## 7 嗜好調査の実施

入院患者及び障害者自立訓練センター（駒生園）入所者を対象に実施しました。（回収率 94.5%）。食事の満足度（「満足」「やや満足」と回答した割合）は 79.8%でした。

また、こども療育センター入所児を対象に食事のアンケートを実施しました。

## 8 講師対応

「とちりハ病院研修会」出前講座にて、17 講座の講師を担当しました。

## 人材育成への取り組み

日本栄養士会、栃木県栄養士会、全国自治体病院協議会などの主催する学会や研修会に参加し、専門的な知識や技術を習得し、自己研鑽に努めています。

## 今後の方向性

### 1 栄養サポートチーム（NST）活動の推進

栄養サポートチーム（NST）の活動を推進し、多職種連携による栄養管理体制の強化を図り、より効果的なリハビリテーションを実施していきます。

### 2 安心安全でより美味しい食事の提供

衛生管理や食の安全に考慮した食事提供及び嗜好調査や患者満足度調査結果等を考慮し、より食事の満足度を向上できるよう所内多職種で連携を図り検討を行います。

### 3 退院後の療養への支援

退院後の再発を防止し、健康管理を図ることができるよう、積極的に入院栄養食事指導を行い指導件数の増加を図ります。

## 8 リハビリテーション部

### 概要

リハビリテーション部は、入院および外来患者に対し、理学療法・作業療法・言語聴覚療法を行い、疾患の特性に応じた質の高いリハビリテーションの提供に努めています。

入院患者については、365 日リハビリテーションを提供しています。リハビリテーション医療はチーム医療であり、各科各職種の連携を図るため、入院カンファレンスを入院日、1 週目、月ごとに行い、情報を共有し患者へのサービス向上に努めています。機能的な回復を目指しつつ、在宅生活にスムーズに移行できるように応用動作の獲得や住環境に関する助言も積極的に行っています。

令和4年度に新設された外来療法科においては、新設当初より職員を2名増員し、外来部門のさらなる充実に向けて取り組んでいます。

対外的には、県内他施設への技術支援としての出前講座、ロコモティブシンドロームの啓発活動、養成校からの実習生受け入れ等、地域支援にも取り組んでいます。

### <理学療法科>

脳血管疾患や運動器疾患等の患者に対し、基本的動作能力の回復や日常生活動作の改善を図ります。寝返り、起き上がり、移乗、立ち上がり、歩行等の能力を評価分析して、運動療法を中心とした理学療法を行っています。

### <作業療法科>

より具体的な生活をイメージし、心身機能や基本的動作能力の改善を図り、日常生活動作の獲得を目指します。退院後の生活を見据えて家事などの応用的動作の練習や住環境の整備、必要時には自動車運転再開に向けた支援も行います。

### <言語療法科>

主に失語症・高次脳機能障害の患者を中心に、機能回復や代替手段獲得へのアプローチを実施しています。また、嚥下障害の患者に対し、機能回復への働きかけのほか姿勢の調整や食形態の選定を行っています。

### <外来療法科>

外来では、小児から成人まで幅広く対象としていますが、6割程度が18歳未満の小児となっています。小児に対しては、遊びも含めた作業活動や課題を通し、基本的動作能力やコミュニケーションなどの発達を目的にしています。身体状況に合わせた車いすや座位保持装置作製などシーティングへの関わりも行います。また、お子さんの在籍する保育園や幼稚園、学校等とも情報交換をしながら連携を図っています。

成人では、退院後の生活の安定を目的に、退院患者へのフォローアップにも取り組んでいます。

**スタッフ紹介**（令和6年4月1日現在）

リハビリテーション部長 和久井 千夏子

リハビリテーション部副部長兼自立訓練科長 長崎 隆司

リハビリテーション部副部長 土屋 綾子

副主幹兼外来療法科長 徳淵 光康

理学療法科長 稲村 恵理子

作業療法科長 渡辺 美和子

言語療法科長 亀田 真弓

他 理学療法士 33名

作業療法士 34名

言語聴覚士 12名

回復期セラピストマネージャー 4名 長崎 隆司 土屋 綾子 稲村 恵理子  
渡辺 美和子**リハビリテーション実施単位数**

（1単位＝20分）

		R1	R2	R3	R4	R5
理学療法	入院	112,112	110,729	100,110	114,423	116,300
	外来	7,569	6,416	6,824	7,262	8,158
	計	119,681	117,145	106,934	121,685	124,458
作業療法	入院	94,131	104,145	94,703	87,077	90,495
	外来	2,935	4,109	4,376	5,739	7,803
	計	97,066	108,254	99,079	92,816	98,298
言語療法	入院	37,968	40,272	36,883	36,194	37,773
	外来	3,387	2,795	2,635	3,544	6,058
	計	41,355	43,067	39,518	39,738	43,831

**人材育成への取り組み**

リハビリテーションサービスの充実を目的として、職員の採用を進めるとともに、新採用職員教育プログラムを体系化し、教育面の強化を行っています。新人向けのみならず、経験のある職員についても経験年数別の到達目標を掲げ、職員に自己研鑽を促すとともに、院外研修を含めた段階別研修の履修をすすめています。また、リハビリテーション部および各療法科のプログラムに加えて、看護部と協力し、合同研修会を企画実施するなど、教育面においても連携しています。業務面においては、チーム制をとり、スタッフ全体でチーム内の患者を担当できるよう、経験年数に関係なくお互いにフォローし合う体制作りにも努めています。

## 実習生受入れ状況

令和5（2023）年度 実習受け入れ

	実習生情報			実習期間		
		学校等	人数	開始日	終了日	延べ日数
理学療法科	総合実習	A	1	R5.4.3	R5.6.5	64
	総合実習	B	1	R5.5.8	R5.7.29	83
	総合実習	C	1	R5.6.12	R5.8.5	55
	評価実習	B	1	R5.8.28	R5.9.16	20
作業療法科	総合実習	B	2	R5.5.8	R5.6.16	80
	総合実習	A	1	R5.6.19	R5.8.20	63
	総合実習	B	2	R5.8.21	R5.9.29	80
	総合実習	C	1	R5.8.21	R5.10.14	55
	評価実習	A	1	R5.9.18	R5.10.15	28
	評価実習	A	1	R5.10.23	R5.11.19	28
	評価実習	B	3	R6.1.8	R6.2.16	93
	見学実習	A	10	R6.2.27	R6.2.27	10
	見学実習	A	13	R6.2.28	R6.2.28	13
	言語療法科	総合実習	B	1	R5.5.29	R5.7.21
総合実習		D	1	R5.5.29	R5.7.21	54
見学実習		B	2	R5.8.1	R5.8.2	4
見学実習		B	3	R5.8.7	R5.8.8	6
評価実習		B	1	R5.9.7	R5.9.23	17

### 今後の方向性

リハビリテーション部では、センター中期計画に沿って、計画達成に向けて取り組んでいます。今後の充実したリハビリテーションサービスの提供・経営改善にむけ、状況に応じた柔軟な人員配置や運営方法、体制構築のために必要な人員確保と育成に取り組んでいます。

引き続き、入院患者の早期の生活能力向上を実現すべく、リハビリテーションのさらなる質的向上を目指すとともに、引き続き退院後の支援のあり方についても検討していきます。

## 9 看護部

### 概要

看護部は、乳幼児から高齢者まで様々な障害をもつ患者や利用者に対し、QOL向上を支援し、家庭や職場、地域社会での自立に向けて、継続看護をしています。また、リハビリテーション医療を提供する専門職種チームの一員として知識・技術を高め、良質な看護の提供に努めています。

部署	業務の概要	勤務体制
外来 常設4科 非常設7科	障害を有する乳幼児から高齢者へのリハビリテーション、小児神経疾患全般にわたる診断治療と療育を専門とした外来。患者・家族・利用者の一人ひとりのニーズに応じた支援を行い、地域と連携しています。	通常勤務
病院 5階・6階病棟（各40床） リハビリテーション科 神経内科・整形外科	脳血管疾患や脊髄損傷、廃用症候群等の患者が入院する回復期リハビリテーション病棟。患者のADL向上と在宅復帰のため、多職種協働で支援しています。	2交代制 2人夜勤
部門 4階病棟（40床） 整形外科 リハビリテーション科 神経内科・小児科	回復期にある整形外科、リハビリテーション科、神経内科の患者のリハビリテーション看護と整形外科手術後や小児神経疾患患者の看護、ボトックスや高次脳機能評価の短期リハ入院など、看護の対象が多岐に渡ります。	2交代制 2人夜勤
手術 中央材料室	QOLやADL向上のための整形外科的手術を実施しています。中央材料室では衛生材料の物品管理や感染症対策としてPPEの適切な採用、在庫管理を行っています。	通常勤務
施設 こども療育センター （33床）	多職種と連携し、入所児一人ひとりのQOL維持向上を目指した成長発達支援、家族支援を行っています。また、短期入所、日中一時支援事業により、地域で生活する障害児、保護者の在宅支援に取り組んでいます。	2交代制 2人夜勤
部門 こども発達支援センター	親子通園している心身に障害を持つ児童の健康管理・相談を行っています。	通常勤務
部門 障害者自立訓練センター （駒生園）	18歳以上の身体障害者、高次脳機能障害者を対象に利用者が自立して生活できるように支援しています。	通常勤務

### スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

管理責任者	スタッフ数
看護部長：岩澤 麻由美	
看護副部長：石川 久美子	
看護副部長兼中材・手術室師長：伊藤 智子	1名
外来師長：廣田 桃子	7名
4階病棟師長：小野 美佐	19名
5階病棟師長：鈴木 朝子	20名
6階病棟師長：小林 晃美	19名
看護部長室兼医療安全管理室師長：岩上 裕美	

認定看護師資格取得者	氏名
脳卒中リハビリテーション看護 3名	廣田 桃子 岡本 淳 片山 泰司
回復期リハビリテーション看護師 3名	伊藤 智子 小林 晃美 平出 昌子
摂食・嚥下障害看護 1名	横田 由紀

## 活動実績

看護部委員会	活動の概要
教育委員会	年間教育プログラムに沿って専門研修、クリニカルラダー研修を実施。リハビリテーション部看護部合同新規採用職員研修を実施。
業務委員会	「看護基準」「看護手順」の見直しを実施。
記録委員会	看護記録マニュアル、電子カルテマニュアルの見直しを実施。 看護記録形式的・質的監査を実施。新採用者への看護記録指導計画立案。
臨床指導者委員会	実習生の実習受け入れ、実習指導者ハンドブックの見直しを実施。
認定看護師委員会	職員への研修企画実施、看護ケアの指導・相談。 家族および患者に対する脳卒中再発予防指導への取り組み。 NST 活動、リンクナースへの教育・指導。 高齢者施設等における出前講座、院外研修の実施。
ふれあい看護実行委員会	7校15名の高校生を受け入れ、ふれあい看護体験を実施。

リンクナース会	活動の概要
褥瘡リンクナース	褥瘡発生リスクの高い患者の把握、予防指導と処置の検討。 体圧分散用具の整備。褥瘡チーム回診の実施（毎週1回）。
ICT リンクナース	各部署の感染対策状況チェック、職員研修の実施。
NST リンクナース	病棟 NST の運営と活動。患者の栄養カンファレンス、ミールラウンドの実施。

## 人材育成への取り組み

次の教育目標を掲げ、人材育成に取り組んでいます。

また、教育プログラムには、クリニカルラダー、eラーニングによる自己学習の導入をしています。

- ①リハビリテーション看護の専門的知識と技術を習得し、患者のニーズに沿った個別的な看護実践ができる
- ②多職種との連携・協働ができる看護師を育成する
- ③科学的根拠のある看護が実践できる看護師を育成する
- ④主体的に学び、自己研鑽ができる看護師を育成する
- ⑤積極的に認定看護師の育成に努める

## 実習生受入れ状況

令和5（2023）年度は、リハビリテーション看護実習としてオンライン研修を1校、小児看護学実習として施設見学実習1校、統合実習として栃木県立衛生福祉大学の延べ32名を受け入れました。

## 今後の方向性

患者の自立に向けた質の高いリハビリテーション看護を実践し、安全・安心な環境を提供します。また、看護学生や他病院・施設からの看護師の実習、高校生・中学生の職場体験を積極的に受け入れます。

## 第3 こども発達支援センター

### 1 概要

こども発達支援センターは、児童福祉法に基づく児童発達支援センターであり、心身に障害のある児童に対して、専門職が障害に応じた保育や看護、各種リハビリテーション、心理療法などを提供するとともに、保護者の様々な悩み・相談にも応じることで総合的な療育を提供し、児童の健全な発達を支援しています。

また、児童と家族が、地域の中で、ライフステージに応じた医療や福祉、教育などを適切に利用できるよう、病院や障害児サービス事業所あるいは保育園・学校などへの技術的な支援も行っています。

令和3年度には保育所等を訪問して児童を支援する事業も開始し、本県における心身障害児早期発見・早期療育システムの中核機関としての役割を果たすべく努めています。

### 2 スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

施設部長：江田 達夫

通園療育課長：関塚 英嗣

通園育成科長：畠山 美知（保育士）

臨床心理科長：谷川 麻記（公認心理師、臨床心理士）

通園リハビリテーション科長：室井 亜紀子（理学療法士）

通園看護科長：山田 裕子（看護師）

地域支援科長：佐藤 文子（言語聴覚士）

他 保育士 12名

公認心理師 5名

理学療法士 1名

作業療法士 2名

言語聴覚士 1名

### 3 活動実績

#### (1) 通園事業

##### ア 児童発達支援センター及び医療型児童発達支援センター

児童発達支援センター（センター内呼称：福祉型クラス）は、発達障害などのある児童に対して、医療や保育・福祉などの多様な側面から総合的な発達を促すとともに、社会生活に必要な知識や技能などを獲得できるように援助することを目的としています。

医療型児童発達支援センター（センター内呼称：医療型クラス）は、上肢、下肢又は体幹の機能の障害（肢体不自由）のある児童に対して、医学的リハビリテーションのほか、保育や福祉などの多様な側面から、機能の改善・発達を促し、集団生活に適応できるよう援助することを目的としています。

ともに親子通園施設であり、次のステップ（幼稚園や保育園、親子分離の療育施設、特別支援学校等への通園（通学））に繋がられるよう一人ひとりの療育目標を立て、その達成に向けた集団指導と個別訓練を提供しています。



また、親子通園であることを活かし、保護者に対しても、子どもの発達に関する正しい知識や子どもとの適切な関わり方を学べるよう支援しています。

イ 定員

児童発達支援センター 30人  
医療型児童発達支援センター 30人

ウ 通園期間

原則1年以内

エ 通所支援の提供日及び提供時間

クラスごとに通園曜日を定めて、週3日の通園  
時間は午前10時～午後2時

オ 通園のパターン

区分		通園曜日				
種別	クラス名	月	火	水	木	金
福祉型クラス	ぱんだ組		○		○	○
	こあら組	○		○	○	
	うさぎ組		○	○		○
	ひよこ組	○		○	○	
医療型クラス	きりん組		○	○		○
	りす組	○	○		○	

カ 事業の実績

① 通園児数

(単位：人)

		R1	R2	R3	R4	R5
福祉型クラス	実人員	429	396	287	440	451
	延人数	3,651	2,964	2,430	3,819	3,753
医療型クラス	実人員	148	121	191	239	194
	延人数	1,066	832	1,414	1,374	1,236

※人員は毎月初日在籍児数

② 通園児の訓練等の実施状況（年間延べ件数）

（単位：件）

区分	R1			R2			R3			R4			R5		
	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計
診察	12	61	189	119	97	216	69	85	154	93	96	189	117	112	229
理学療法	0	676	676	14	493	507	0	727	727	0	603	603	2	539	541
作業療法	591	182	773	731	190	921	418	242	660	483	181	664	468	138	606
言語療法	399	161	560	350	99	449	308	195	503	467	191	658	431	130	561
心理相談	405	129	534	382	112	494	276	172	448	473	167	640	474	135	609

※保育場面参加件数を含む

**(2) 保育所等訪問支援事業**

こども発達支援センターでは、令和3年度から保育所等訪問支援事業を開始しました。

これは、ご家族からの依頼により、職員がお子さんの通う保育所や幼稚園等に出向き、当該保育所等のスタッフと情報を共有し、お子さんがより健やかに成長できるように、また集団生活の場所で安心して過ごせるよう支援する事業です。

ア 対象児：県内在住で、集団生活を営む保育所等の施設に通っているお子さん

イ 利用期間：1年（基本、期間延長可）

ウ 訪問回数：月2回以内

昨年度（令和4年度）の利用契約者数は17人、今年度（同5年度）は23人であり、事業利用者は落ち着いた増加傾向を見せています。また、保育所や幼稚園への訪問だけでなく、小学校への訪問も開始しました。

**(3) 地域療育支援事業**

こども発達支援センターでは、例年、肢体不自由児や発達障害児等が、住み慣れた地域で必要な医療・福祉サービスを利用できるよう、地域療育支援事業として、地域の児童発達支援事業所等を対象とした研修会を開催するとともに、技術習得（センターとしては支援）を目的とした実習を受け入れています。

例年、児童発達支援事業所や保育所・幼稚園、市町等の職員を対象とした医師、療法士等による研修会を1～2回開催しています。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため令和2年度・3年度は1回の開催としましたが、4年度からは2回開催となり、今年度も2回開催致しました。

実習の受け入れは、1回の受け入れ人数は2人以内とするなど感染対策を徹底し、かつ感染者の少ない時期に集中的に実施することで、目標である25回を大きく超えた40回、65名を実施することができました。今後とも利用児童へのストレスなどを考慮しながら、効果的な実習受け入れに取り組んで参ります。

#### (4) 通園児・退園児の情報交換等

こども発達支援センター利用児の療育向上に資するため、通園中及び退園後において、利用児が関係する保育所、幼稚園、相談支援事業所等との情報交換や技術支援を行っています。

	R1		R2		R3		R4		R5		
	施設数 (件)	対象児童 (人)	施設数 (件)	対象児童 (人)	施設数 (件)	対象児童 (人)	施設数 (件)	対象児童 (人)	施設数 (件)	対象児童 (人)	
来 園	保育園	4	4	1	1	0	0	2	2	1	1
	幼稚園	3	4	7	8	1	1	5	6	3	5
	通園施設	1	1	0	1	1	2	0	0	0	0
	相談支援事業所	18	26	6	11	8	12	9	13	5	5
	児童発達事業所	15	21	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	41	56	14	21	10	15	16	21	9	11
訪 問	保育園	2	2	1	1	2	2	3	3	2	2
	幼稚園	13	17	6	8	15	16	12	17	12	17
	通園施設	1	25	1	17	1	18	2	23	1	17
	相談事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	児童発達事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	16	44	8	26	18	36	17	43	15	36

#### (5) 退園児療育支援外来（フォローアップ外来）事業

こども発達支援センター利用児の退園後の療育の場を提供することにより、地域での生活を支援するために実施しています。

なお、この外来は原則として退園後から就学前とし、こども発達支援センターの訓練室等を利用して通園療育課の職員が実施しています。

退園児療育支援外来（フォローアップ外来）の実績

（単位：件）

区分	R1			R2			R3			R4			R5		
	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計
理学療法	0	310	310	0	299	299	11	139	150	11	155	166	0	222	222
作業療法	134	30	164	162	40	202	264	11	275	289	75	364	331	66	397
言語療法	299	12	307	255	35	290	237	20	257	329	54	383	472	61	533
心理相談	241	10	251	169	15	184	207	0	207	158	7	165	196	29	225

（注）入園前外来も含む

## 4 人材育成への取り組み

センターの利用児に適切な療育を提供し、また、保護者を支援するためには、専門的知識や技術を習得する必要があるため、内外の研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めました。

## 5 実習生受け入れ状況

地域の関係者への技術支援のため、実習生等を積極的に受け入れています。

令和元年度までは、歯科衛生士専門学校の実習生を延べ日数で9日間受け入れていましたが、令和2年度からは実習と新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の両立を図るため、延べ日数を6日に減らすほか、直接的な口腔ケア実習を避けるなどしています。

令和5年度は昨年度より3人多い31名を受け入れました。

また、地域療育支援事業（再掲）は、1回の受入れ人数を概ね2人以下に限定するなど感染対策を徹底し、かつ感染者の少ない時期に集中実施することで、計40回（65人）の実習を受け入れました。

## 6 今後の方向性

幼児の障害に係る正しい知識と専門性の高い技術を身に付けた保育士や療法士（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、公認心理師、看護師が協力して、入園児個々の心身状況に応じた適切な保育やりハビリテーションを一所懸命に提供していきます。

また、障害の状況や家族のニーズに応じた総合的な療育の場等を提供し、専門職による治療、発達促進のための療育指導、家族に対する療育支援等を行っていきます。

障害児とその家族が、ライフステージに沿って、地域で適切な療育及び教育並びに障害福祉サービスが受けられるよう、引き続き、地域の関係者への技術援助や指導も行い、本県における心身障害児の早期発見、早期療育システムの中核機関としての役割も果たしていきます。

# 第4 こども療育センター

## 1 概要

こども療育センターは、児童福祉法に基づく医療型障害児入所施設です。医療法に規定する病院機能を有し、四肢や体幹に機能障害がある児童（18歳未満）の治療、訓練等を効果的に行うため、これらの機能を円滑かつ効率的に活用して、肢体不自由児が地域社会で自立した生活ができるよう、家族を含めて療育指導を行っています。

また、障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービス事業者として、障害児を一時的に保護する短期入所事業や市町との委託契約による日中一時支援事業を行っています。なお、短期入所事業では人工呼吸器装着児の利用も受け入れています。

## 2 スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

施設部長：江田 達夫

入所療育課長兼入所育成科長：檜山 浩

副主幹兼入所看護科長：加藤 洋子

他 保育士 3名

看護師 19名

社会福祉士 1名

## 3 活動実績

### (1) 入所事業

脳性麻痺、二分脊椎などにより手足又は体幹の機能に障害のある児童等に対し、障害程度や能力・適性に応じた保育・看護・機能訓練等を行い、自立した日常生活ができるよう療育訓練を行っています。（定員30人）

また、学齢児は隣接する「わかくさ特別支援学校」へ通学しています。

① 入所児の状況（障害の級別）（毎年度3月31日現在）（単位：人）

	R1	R2	R3	R4	R5
人員	21	22	19	18	19
1級	11	12	11	8	8
2級	7	8	6	6	7
3級	1	2	2	1	1
その他	0	0	0	3	3

② 年齢別入所児の状況（令和6（2024）年3月31日現在）（単位：人）

年齢 区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	合計
男	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	2	1	1	1	0	1	0	0	10
女	0	1	0	0	1	0	1	3	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	9
計	1	1	1	1	1	0	1	4	1	0	2	2	1	2	0	1	0	0	19

③ 入所児の措置・契約別状況（令和6（2024）年3月31日現在）（単位：人）

項目 区分	男		女		合計		
	措置	契約	措置	契約	措置	契約	計
乳幼児	3	0	1	1	4	1	5
小学部（1～3）	0	1	3	2	3	3	6
小学部（4～6）	2	1	1	0	3	1	4
中学部	1	1	1	0	2	1	3
高等部	0	1	0	0	0	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	4	6	3	12	7	19

4 こども療育センター

④ 入所期間の状況（令和6（2024）年3月31日現在）（単位：人）

期間 区分	～6か 月未満	6か月～ 1年未満	1年～ 2年未満	2年～ 4年未満	4年～ 6年未満	6年～ 8年未満	8年～ 10年未満	10年～ 12年未満	12年以上	合計
	男	措置 1	1	2	0	0	0	0	1	1
	契約 0	0	1	0	0	0	1	0	2	4
女	措置 0	1	0	1	1	1	1	1	0	6
	契約 0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
計	1	2	4	2	2	1	2	2	3	19

⑤ 入所児の要介助状況（令和6（2024）年3月31日現在）（単位：人）

区分	食事	着脱 着衣	洗面 歯磨き	トイレ	入浴	歩行	言語	比率
自立	2	0	1	1	0	6	5	11.3%
一部介助	6	4	4	2	3	2	2	17.3%
全部介助	11	15	14	16	16	11	12	71.4%

⑥ 退所先の状況

(単位：人)

		R1	R2	R3	R4	R5
在宅	特別支援学校	1	0	1	0	1
	特別支援学級	1	0	0	0	0
	その他	0	1	3	1	2
	他の児童福祉施設	5	0	1	4	1
施設の変更等	障害者(18歳以上)の施設	0	0	0	1	0
	就職	0	0	0	0	0
	死亡	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0

⑦ 入所児への機能訓練等の実施状況

(単位：件)

	R1	R2	R3	R4	R5
理学療法	1292	1420	1156	685	864
作業療法	1024	528	635	355	593
言語療法	243	154	246	231	189
臨床心理	38	0	22	36	21
合計	2597	2102	2059	1307	1667

⑧ 補装具専門外来対応状況

(単位：件)

	R1	R2	R3	R4	R5
ブレイスクリニック	74	18	58	51	14
シーティングクリニック	57	22	81	75	19
合計	131	40	139	126	33

(2) 短期入所事業

在宅で障害児を介護している保護者が、疾病その他の理由によって、一時的に介護ができなくなった場合に、当該障害児の短期間受け入れを行っています。

平成21(2009)年3月から短期入所利用定員4名のうち2名については人工呼吸器装着児等の重症心身障害児専用枠として受入れています。

利用期間 原則7日以内(宿泊を伴う)

定員 4人

短期入所受入実績

(単位：人)

	R1	R2	R3	R4	R5
実人数	96	60	93	91	67
延人数	536	314	425	478	373
契約数	22	22	25	23	20

### (3) 日中一時支援事業

障害児の日中における活動の場を確保し、家族の就労支援及び障害児を日常的に介護している家族の一時的な休息の確保を目的に市町との委託契約のもと、障害児の短時間受け入れを行っています。

利用期間 日戻り（1日以内）  
定員 4人

日中一時受入実績

（単位：人・日）

	R1	R2	R3	R4	R5
実人数	62	31	57	54	48
延人数	128	102	113	156	101

## 4 人材育成への取り組み

利用児への適切な療育や保護者支援を行うため、内外の研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めています。

## 5 実習生受け入れ状況

地域支援を目的として保育士養成校から実習生を積極的に受け入れています。

## 6 今後の方向性

県内唯一の医療型障害児入所施設（主として肢体不自由児）として、引き続き障害児の療育を行って行きます。

また、指定障害福祉サービス事業所（短期入所等）として、在宅障害児の家族のレスパイト等を支援していきます。



# 第5 障害者自立訓練センター（駒生園）

## 1 概要

障害者自立訓練センター（駒生園）は、障害者総合支援法に基づく障害者（主に身体障害（肢体不自由）及び高次脳機能障害）の地域生活移行を目指した指定障害者支援施設です。

脳血管疾患、脳性麻痺、外傷等により四肢や体幹等に障害のある方や高次脳機能障害の方を対象に、自立訓練（機能訓練／生活訓練）と施設入所支援を通して、それぞれの障害に応じたサービスを提供することで、身体機能の維持・回復や生活能力の向上などを図り、様々な形での社会参加を支援します。

具体的には、利用者の身体能力等を的確に把握するため、サービス等利用計画に基づき、入所時及び入所後の適切な時期に評価を行い、本人、家族と協議しながら、個別支援計画を作成（3か月毎に見直し）し、利用期間内に地域生活へ移行することを目指して各種訓練を行います。

利用期間は原則として1年ですが、機能訓練は1年6か月、生活訓練は2年まで延長可能です。

## 2 スタッフ紹介（令和6年4月1日現在）

施設部長：江田 達夫

自立支援課長：重田 恭一

生活支援科長：須藤 直子

自立訓練科長：長崎 隆司

自立看護科長：山田 裕子

他 生活支援員 12名

理学療法士 1名

作業療法士 1名

言語聴覚士 1名

公認心理師 1名

業務嘱託員 4名

事務職員 1名

## 3 活動実績

多職種が連携し、かつ支援計画に基づき、利用者のニーズに応じた多彩な自立訓練を実施しました。

### (1) 機能訓練（定員30人）

・身体能力の維持、残存能力の育成助長

・日常生活動作の向上

食事やトイレなど生活上のあらゆる場面を訓練の場と捉え、実用に結びつく訓練を行いました。

・生きがいの再構築

創作活動や教養活動、レクリエーション等、体験活動を積極的に実施しました。

・社会性の涵養

様々な人間関係をスムーズに築いていけるよう、個別指導やグループ活動を通して、コミュニケーション能力の向上を目指しました。

自立訓練（機能訓練）利用状況

（単位：人）

期日 \ 年度	R1	R2	R3	R4	R5
年間利用実人員	16	14	17	15	14
年間利用延べ人数	2,386	1,755	1,266	1,272	1,780

主な訓練の実施状況

（単位：人）

訓練内容 \ 年度	R1	R2	R3	R4	R5
個別訓練	1,284	1,040	678	704	1,010
自主訓練	2,016	1,497	1,022	937	1,780
言語訓練（※）	128	127	102	117	108
心理相談（H30～）	51	68	75	53	86
認知リハ（グループ） *R2～		136	118	179	281
生活グループ *R4～				239	312
公共交通機関利用・外出訓練	16	0	3	1	22
買い物訓練	4	0	0	3	12
調理訓練	5	9	0	1	6
入浴訓練	8	2	6	5	8
グループ訓練	85	60	41	49	89
家庭訪問・居宅動作確認等	13	8	3	5	6
施設見学・施設実習	7	16	11	15	24
補装具作成支援	15	18	6	5	25
計	3,632	2,981	2,065	2,313	3,769

（※）生活訓練利用者含む

**(2) 生活訓練（定員 10 人）**

・生活リズムの確立

施設内の生活を通して規則正しい生活習慣を身につけるとともに、日中の活動性を高めるための訓練を行いました。

・生活管理能力の向上

利用者が日課に沿って自ら行動できるよう、スケジュール表を活用し日課の管理等を行いました。

・社会生活技能、対人技能の向上

地域での生活に向け、買い物や公共交通機関を利用した外出訓練、調理訓練等を実施し、社会生活技能の向上を図りました。また、グループワークを行い、メンバー間の意見交換や役割分担・計画・実行・反省の過程を通して、対人技能の向上を目指しました。

・代償手段の獲得

メモリーノートを活用し、記憶の代償手段の獲得を図りました。

・作業耐性の向上

各種手工芸、事務作業、園芸作業及びスポーツ訓練を通して作業耐性の向上を図り、就労等に向けた準備を支援しました。

自立訓練（生活訓練）利用状況

（単位：人）

期日	年度	R1	R2	R3	R4	R5
年間利用実人員		7	7	5	4	7
年間利用延べ人数		849	908	769	192	951

主な訓練の実施状況

（単位：人）

訓練内容	年度	R1	R2	R3	R4	R5
グループ訓練	スケジュール確認・振り返り	1,580	1,757	1,430	485	951
	スキルアップ	310	367	292	68	1
	認知リハ	254	373	257	36	155
	グループOT	297	287	285	63	171
	ガーデニング	285	334	175	47	139
	レクリエーション	0	8	0	2	6
	スポーツ	216	235	213	29	142
	作業	173	143	125	16	81
	個別訓練	就労訓練	40	91	86	49
個別（OT 又はPT）		264	276	203	26	210
心理相談 *H30～		57	42	42	9	23
創作	128	279	282	75	244	
パソコン	330	369	333	57	217	
公共交通機関利用訓練・外出訓練	57	3	2	2	6	
買い物・調理訓練	26	13	1	0	14	
就労関連（施設見学・体験等）	16	17	125	121	1	
その他（自主トレーニング等）	930	961	797	89	107	
計		4,963	5,555	4,648	1,174	2,468

自立訓練（機能訓練）利用者の障害等級別状況推移

（単位：人）

等級	年度	R1	R2	R3	R4	R5
1 級		6	6	10	4	9
2 級		6	4	8	5	4
3 級		2	2	0	1	0
4 級		0	0	0	2	1
5 級		0	0	0	2	0
6 級		2	2	0	1	0
その他		0	0	0	0	0
計		16	14	18	15	14

（注）年間の全利用者数

自立訓練（機能訓練・生活訓練）利用者の病種別状況（R 5）

（単位：人）

病 種	脳血管疾患	頭部外傷	脊損・胸損 頸損	難 病	その他	計
人 数	16	0	5	0	0	21

（注）年間の全利用者数

**(3) 施設入所（定員 30 人）**

入所しながら自立訓練等を実施することが必要かつ効果的と認められる利用者や通所が困難な利用者を対象に、入浴・排せつ等の介助、生活等に関する相談・助言など日常生活上の支援を行いました。

施設入所利用者の状況

（単位：人・日）

項目	年度	R1	R2	R3	R4	R5
年間利用実人数		30	16	14	14	19
年間利用延べ日数		4,658	3,510	2,316	1,618	2,575

（注）年間の全利用者数

**(4) 短期入所（定員 4 人）**

在宅の障害者の介護を行う方が疾病やその他の理由により一時的に介護ができなくなった場合に、短期間の受入れを行い、入浴・排せつ、食事の介護など必要な支援を行いました。

短期入所利用者の状況

（単位：人・日）

項目	年度	R1	R2	R3	R4	R5
年間利用実人員		130	59	48	33	63
年間利用延べ日数		664	427	284	163	390

（注）年間の全利用者数

## 4 人材育成への取り組み

利用者本人や家族からの相談等に適切に対応するためには、専門分野だけではなく、幅広く関連した情報等が必要なため、内外の研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めました。

## 5 実習生受入れ状況

地域支援のため、介護福祉士養成校の実習生等を積極的に受け入れしています。

令和5（2023）年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者と直接接しない業務を主とした介護等体験としましたが、福祉・介護職見学・体験の希望者及び教員免許取得予定者、介護実習生の申し込みはありませんでした。

## 6 今後の方向性

身体障害者や高次機能障害者への自立訓練（機能訓練／生活訓練）を行う県内唯一の施設として、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、利用者がスムーズに地域生活に移行できるよう、関係機関等と連携を図り効果的な自立訓練の実施に努めていきます。

また、利用しやすく、利用者や家族をはじめ県民のニーズに沿ったサービスが提供できるよう施設づくりに努めていきます。

# 第6 医療安全管理

## 1 概要

医療安全管理対策及び医療安全事故発生時の対応体制の確立を推進し、もって適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としています。

医療安全管理委員は、安全管理体制の確保及び推進に関する全般的事項について審議することを目的に設置しています。さらに、体制確保するための委員会・ワーキンググループ（WG）を所管しています。

## 2 各委員会等活動内容

### <リスクマネジメント委員会>

#### ・活動内容

1. 事例のレポート作成、把握、分析
2. 事故防止対策マニュアルの見直し
3. 事故報告書、インシデントレポート等の報告
4. 事故防止の啓蒙、職員の研修・教育
5. その他、事故防止

#### ・活動実績

1. 委員会実施（月1回／第2月曜日）
2. 物品破損等への対応
3. インスリンペン型注入器の使用済みペンニードルの取扱いについて
4. 無断離院・離棟の対応マニュアルの見直し

### <転倒・転落検証WG>

#### ・活動内容

1. 検証WG実施（年10回）
2. 転倒・転落事例検討
3. 検証

#### ・活動実績

1. 転倒・転落時の患者・家族への説明についての検討
2. 転倒・転落後の報告フローチャートの見直し
3. 「安全用具の種類と使用方法」一覧表の見直し
4. 転倒転落アセスメントスコアシートの見直し
5. 新規採用者研修講師

### <感染対策委員会>

#### ・活動内容

1. 感染症の院内感染防止対策の作成及び推進
2. 感染症の院内感染症発生時の対応マニュアル等の作成
3. 院内感染などの情報収集及び職員研修

#### 4. その他、院内感染対策

##### ・活動実績

1. 委員会（月1回／第3水曜日）  
ICT（感染防止対策チーム）（感染対策委員会終了後、定期月1回、他臨時開催随時）  
会議の開催
2. 新規採用者研修
3. 感染防止対策研修会（2回）「手指衛生について」、「環境整備」
4. 栃木県立がんセンター共同カンファレンス（4回）
5. 新型コロナウイルス感染者発生時の対策チェックリスト作成
6. 感染症対応（インフルエンザ、流行性耳下腺炎、RSウイルス、ノロウイルスなど）

### <医療安全管理室>

##### ・活動内容

1. アクシデント・インシデントレポート報告による情報の収集、分析及び提供
2. 医療安全対策の実施状況の評価及び業務改善計画書の作成
3. 医療安全管理に関する連絡調整及び医療安全管理委員会との連携
4. 医療安全対策の啓蒙、職員の研修・教育
5. その他、医療安全

##### ・活動実績

1. 打ち合わせ実施（月1回／第2月曜日）
2. 新規採用者研修
3. 無断離院・離棟の対応マニュアルの見直し
4. 院内研修会実施後の習熟度把握
5. 医療安全対策研修会（2回）「BCPと災害時の対応」「AEDの使用方法和心肺蘇生」
6. 医療安全推進週間の取り組み「医療安全院内ラウンド」の実施
7. 栃木県立がんセンター医療安全対策地域連携加算ラウンド

### <褥瘡対策委員会>

##### ・活動内容及び実績

1. 褥瘡対策委員会の開催
2. 院内褥瘡発生率の集計・現状把握・分析
3. 褥瘡に関する診療計画書の作成
4. 褥瘡回診（多職種でラウンド・回診前にカンファレンス実施）
5. 院内研修会の企画・開催（令和5年度研修会は12月4日開催。テーマ：「スキンケアと除圧の一手」講師：NHO 栃木医療センター褥瘡対策室皮膚・排泄ケア特定認定看護師 遠藤富美氏）
6. 褥瘡ケアマニュアルの作成・改訂（1回／年）
7. 体圧分散寝具・高機能エアマットレスの管理・運用

### <感染性廃棄物管理委員会>

・活動内容及び実績

1. 委員会実施（年1回） 令和6年3月5日開催
2. センターの生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、安全な医療の提供を保全

### <医療ガス安全管理委員会>

・活動内容及び実績

1. 委員会実施（年1回） 令和6年3月5日開催
2. 医療ガス設備の保守点検

### <医療機器安全管理委員会>

・活動内容及び実績

1. 委員会実施（年1回） 令和6年3月5日開催
2. 保守点検に関する計画の策定及び保守点検

## 3 過去5年間（令和元年度～令和5年度）における医療事故等について

過去5年間に当センターで発生した医療事故等は次のとおりです。

### 1 レベル別件数

レベル (※1)	内 容	件数（年度別）				
		R1	R2	R3	R4	R5
0	エラー（※2）や医薬品・医療機器の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。	133	100	100	76	56
1	患者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない。）。	357	294	242	240	293
2	処置や治療は行わなかった（患者観察の強化、バイタルサイン（※3）の軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた。）。	148	114	86	108	91
3a	簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）。	104	63	44	64	70
3b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など）。	7	5	5	7	4
4a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。	0	0	0	0	0
4b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。	0	0	0	0	0
5	死亡（原疾患の自然経過によるものを除く。）	0	0	0	0	0
計		749	576	477	495	514

※1 レベル0～3a…ヒヤリ・ハット事例（患者に実害がなかったもの）に該当

レベル3b～5…医療事故（患者等への実害があったもの）に該当

※2 ある行為が①行為者自身が意図したものでない場合、②規則に照らして望ましくない場合、③第三者からみて望ましくない場合、④客観的期待水準を満足しない場合などに、その行為を「エラー」という。

※3 血圧、脈拍、呼吸など



## 2 事象別件数（（公財）日本医療機能評価機構による分類）

事 象	内 容	件数（年度別）				
		R1	R2	R3	R4	R5
薬剤	注射、点滴、内服薬など	194	158	138	141	131
輸血	血液検査、輸血など	0	0	0	0	0
治療処置	手術、麻酔、処置など	41	23	26	33	19
医療機器等	医療機器など	11	8	9	5	6
ドレーン、チューブ類	チューブ、カテーテルなど	58	35	21	44	44
検査	採血、撮影など	26	25	12	11	11
療養上の世話・場面	転倒、転落、給食、栄養など	380	288	229	231	273
その他	苦情、暴言暴力、離院離棟など	39	39	42	30	30
	計	749	576	477	495	514

## 第7 研究論文、研究発表等

---

### 1 論文及び著書

#### 小児科

#### ○論文

1. Miyauchi A, Watanabe C, Yamada N, Jimbo EF, Kobayashi M, Ohishi N, Nagayoshi A, Aoki S, Kishita Y, Ohtake A, Ohno N, Takahashi M, **Yamagata T**, Osaka H. Apomorphine is a potent inhibitor of ferroptosis independent of dopaminergic receptors. *Sci Rep*. 2024;14:4820.
2. Hirai M, Ikeda A, Kato T, Ikeda T, Asada K, Hakuno Y, Matsushima K, Awaya T, Okazaki S, Kato T, Heike T, Hagiwara M, **Yamagata T**, Tomiwa K, Kimura R. Comparison of the Sensory Profile Among Autistic Individuals and Individuals with Williams Syndrome. *J Autism Dev Disord*. 2024.
3. Tamura D, Morisawa Y, Mato T, Nunomiya S, Yoshihiro M, Maehara Y, Ito S, Ochiai Y, Yamagishi H, Tajima T, **Yamagata T**, Osaka H. Temporal Trend of the SARS-CoV-2 Omicron Variant and RSV in the Nasal Cavity and Accuracy of the Newly Developed Antigen-Detecting Rapid Diagnostic Test. *Diagnostics (Basel)*. 2024;14:119.
4. Matsumoto A, Kano S, Kobayashi N, Matsuki M, Furukawa R, Yamagishi H, Yoshinari H, Nakata W, Wakabayashi H, Tsuda H, Watanabe K, Takahashi H, **Yamagata T**, Matsumura T, Osaka H, Mori H, Iwamoto S. Unfavorable switching of skewed X chromosome inactivation leads to Menkes disease in a female infant. *Sci Rep*. 2024;14:440.
5. Ikeda A, Hakuno Y, Asada K, Ikeda T, **Yamagata T**, Hirai M. Development of emotion comprehension in children with autism spectrum disorder and Williams syndrome. *Autism Res*. 2023;16:2378-2390.
6. Kurane K, Wakae K, Yamagishi H, Kawahara Y, Ono M, Tamura D, Furuya K, Taga N, Matsuki M, **Yamagata T**, Muramatsu K. The first case of hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome with fulminant hypercytokinemia associated with pediatric COVID-19. *Brain Dev*. 2024;46:44-48.
7. Hashimoto Y, Kumagai H, Okada Y, Seki M, Yasuyuki N, **Yamagata T**, Yokoyama K. Hemorrhagic duodenal ulcer as a rare complication prior to antiplatelet therapy for Kawasaki disease. *Pediatr Int*. 2023;65:e15628.
8. Yamagishi H, Tamura D, Aoyagi J, Suzuki S, Mizobe Y, Wakae K, **Yamagata T**, Tajima T, Osaka H. Impact of the omicron phase on a highly advanced medical facility in Japan. *Front Pediatr*. 2023;11:1201825.
9. Koshu K, Muramatsu K, Maru T, Kurokawa Y, Mizobe Y, Yamagishi H, Matsubara D, Yokoyama K, Jimbo E, Kumagai H, Sanada Y, Sakuma Y, Fukushima N, Narita A, **Yamagata T**, Osaka H. Neonatal onset of Niemann-Pick disease type C in a patient with cholesterol re-accumulation in the transplanted liver and inflammatory

bowel disease. Brain Dev. 2023;45:517-522.

10. Wakabayashi K, Osaka H, Yamagishi H, Kuwajima M, Ikeda T, Matsumoto A, Muramatsu K, **Yamagata T**. Investigation of the efficacy and adverse effects of lacosamide over 36 months. Epilepsy Behav. 2023;144:109227.
11. 若江恵三, 田村大輔, 北村薫, 村松一洋, 福田真也, 小野真里花, 倉根超, 山岸裕和, 古屋開土, 永野達也, 多賀直行, **山形崇倫**, 田島敏広, 小坂仁. 小児COVID-19の急性脳症. NEUROINFECTION 2023;28:64-70

## 2 学会発表

### 小児科

- ・ Marina Mizobe, **Karin Kojima**, Tadahiro Mitani, Kazuhiro Muramatsu, Hitoshi Osaka, Naoyuki Taga, Masahiro Hirai, Yoshiyuki Onuki, Takeshi Nakajima, Shin-ichi Muramatsu, **Takanori Yamagata**. Long-term efficacy of gene therapy for AADC deficiency, including patients with a moderate phenotype. American Society of Gene and Cell Therapy 26th Annual Meeting. 2023.5.12
- ・ **増田卓哉, 桑島真理, 小島華林, 山形崇倫**. ADHD治療におけるピバンセ(Lisdexamfetamin :LDX)の使用経験. 日本小児科学会栃木県地方会. 2023.7 栃木
- ・ **Karin Kojima, Yoshie Kurokawa**, Chika Watanabe, **Takanori Yamagata**. Gene therapy for Niemann-Pick disease type C1 (NPC1) using AAV.GTX-NPC1. 第29回日本遺伝子細胞治療学会学術集会 シンポジウムGenetic Diseases. 2023.9.11 大阪
- ・ **山形崇倫**. Niemann-Pick病C型等の先天代謝異常症に対するAAVベクターを用いた遺伝子治療開発. 第64回日本先天代謝異常学会学術集会 2023.10.7 大阪
- ・ **桑島真理, 増田卓哉, 山形崇倫**. 限局性学習症の評価と診断. 日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会. 2023.11.4 宮崎

### リハビリテーション部

- ・ **稲村恵理子, 中村紗希, 石井壮, 須永和寿, 長崎隆司**, Honda歩行アシストステップモードによる歩行能力への影響について,第61回全国自治体病院学会,2023.8.31-9.1,札幌
- ・ **金子拓海, 渡辺美和子, 大石弥生, 狩野泰宏, 永岡慶人, 土屋綾子**,退院支援のあり方について考える～“覚えていない”と言われて～,リハビリテーション・ケア合同研究大会,2023.10.26-27,広島
- ・ **駒形孝大, 須永和寿, 小野上みなみ, 田中香菜子, 鷹箸真菜見, 稲村恵理子**, 脳卒中片麻痺患者に対して随意運動介助型電気刺激を用いた歩行練習の効果-Sensor Triggerモードが歩行機能に及ぼす影響の検討-,第27回栃木県理学療法士会学術大会,2023.11.26,自治医科大学

### 看護部

- ・ **山田光枝, 高松宏実, 伊藤智子**,回復期リハビリテーション病棟における栄養管理～栄養状態改善に向けた実践的学習の取り組み～,第61回全国自治体病院学会,2023.8.31-9.1,札幌
- ・ **小林拓磨, 茂呂拓海, 岩崎里枝, 小林晃美**,車椅子からの転倒に関する調査～Y字型拘束帯の使用を検討した症例から～リハビリテーション・ケア合同研究大会,2023.10.26-27,広島

- ・ **横田由紀、川田千尋、石川綾香**, 回復期リハビリテーション病棟における病棟NSTの効果～慢性腎不全を合併するせん妄患者の症例から～,第13回リハビリテーション栄養学会学術集会,2024.3.2,三重
- ・ **塩田絵梨子**,精神発達遅滞を抱えた医療的ケア児との関わり方～プロセスレコードを活用した振り返り～,とちぎ小児看護研究会,第2回研究会,2024,2,17

## 施設部

- ・ **近藤結衣、岡村順子、児玉英子、安徳静鶴、山田裕子**,日中一時・短期入所利用児への遊び時間の確保にむけた取り組み,第68回全国肢体不自由児療育研究大会,2023.10.26-27, 東京
- ・ **佐藤文子、永岡大輔**, 構音障害を持つ児の音韻の発達経過, 第49回日本コミュニケーション障害学会学術講演会, 2023.7.1-2, 大阪

## 3 講演 小児科

No	講演者	演題	主催	開催地	開催日
1	山形 崇倫	Zolgensma launch symposium; Zolgensma treatment for three Japanese patients with SMA two symptomatic and one pre-symptomatic patients.	ノバルティス ファーマ社	香港	2023.6.29
2	山形 崇倫	Zolgensma launch symposium; Importance of MDT in gene therapy.	ノバルティス ファーマ社	香港	2023.7.1
3	山形 崇倫	医療機関、専門機関との連携	肢体不自由児特別支援学校 PTA 連合会総会	宇都宮	2023.7.30
4	山形 崇倫	臨床使用が開始された小児神経疾患に対する遺伝子治療	ムコ多糖症研究会	東京	2023.8.19
5	山形 崇倫	Reimagining SMA with ZOLGENSMA: From Symptomatic to Pre-symptomatic Treatment. In 2023 International Spinal Muscular Atrophy (SMA) Conference: Era of Disease-Modifying Therapies for Treating SMA	ノバルティス ファーマ社	台湾 (Web)	2023.8.19
6	栞島 真理	学校での医療的ケア	のぞわ特別支援学校	宇都宮	2023.10.18
7	栞島 真理	発達障害の理解と対応	こども発達支援センター	宇都宮	2023.11.14
8	山形 崇倫	Clinical experiences of Onasemnogene abeparvovec treatment and worldwide clinical trials of gene therapy for child neurological diseases In "4th Asia Pacific course: Early Diagnosis and Treatment of Inherited Metabolic Disease"	The Recordati Rare Diseases Foundation	東京	2023.11.24

No	講演者	演題	主催	開催地	開催日
9	栗島 真理	小児の胃ろうと栄養管理	自治医大	下野市	2024.1.14
10	栗島 真理	小児の神経発達症と睡眠障害	ノーベルファーマ社	宇都宮	2024.2.1
11	山形 崇倫	脊髄性筋萎縮症の治療と新生児スクリーニング、第13回市民公開講座 赤ちゃんから社会へのメッセージ	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター	東京	2024.2.17
12	栗島 真理	子ども中心の学習障害支援	とちぎ子ども医療支援プロジェクト	宇都宮	2024.3.20
13	山形 崇倫	アデノ随伴ウイルス (AAV) ベクターを用いた遺伝子治療の臨床応用	ノバルティス ファーマ社	和歌山	2024.3.23

## 神経内科

No	講演者	演題	主催	開催地	開催日
1	近藤 総一	NMOSD連携セミナー in 宇都宮 視神経脊髄炎における回復期リハビリテーションについて	中外製薬株式会社	宇都宮市 (web)	2023.6.15
2	近藤 総一	とちリハ病院研修会 自動車運転再開とリハビリテーション 1. 脳損傷者の自動車運転再開とリハビリテーション	栃木県立リハビリテーションセンター	宇都宮市	2023.11.6
3	近藤 総一	自動車運転再開支援に関する情報交換会 ①県内における自動車運転評価の現状について「自動車運転再開に必要な診断と評価について」	栃木県作業療法士会 自動車運転支援検討委員会	宇都宮市	2024.2.9

## 4 センター内職員研修

### (1) 全体研修

開催日	内 容	講 師	参加人数
R5.4.3、4	新規採用職員研修	各部担当者	4/3 12 4/4 13
R5.6.28	第1回医療安全研修会 (BCP(業務継続計画)と災害時の対応について)	管理部 齋藤 督仁 中央監視 小池 浩継	259 (研修録画の自主視聴含む)
R5.9.19	全体研修	所長 星野 雄一	23
R5.10.12	障害者虐待防止研修	栃木県障害福祉課 丹羽 亮介 氏	25
R5.10.26	クレーム対応研修	経営支援人事労務研究所(有) 松本 和子氏	32
R5.11.1 ~ 11.30	診療放射線安全管理研修会	診療部 船越政範 放射線科 栗原あゆみ	98 (研修録画の自主視聴)
R5.11.21	第2回医療安全研修会 (AEDの使用法および心肺蘇生に関する救急指導)	西消防署宝木分署消防隊員 3名	266 (研修録画の自主視聴含む)
R5.12.4	褥瘡対策研修会 (褥瘡予防 基本のテ スキンケアと除圧の一手)	NHO 栃木医療センター 遠藤富美 氏	33

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.3.5	令和6年能登半島地震 栃木 JRAT 支援活動報告会	診療部 船越政範 施設部 佐藤文子 加藤由里 ほか	64

## (2) 部内研修

### ア 施設部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R5.4.20	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R5.5.31	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R5.6.20	臨床心理科科内学習会	公認心理師	4
R5.7.19	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R5.8.29	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R5.9.27	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R5.10.24	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R5.11.22	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R5.12.19	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R6.1.31	臨床心理科科内学習会	公認心理師	4
R6.2.28	臨床心理科科内学習会	公認心理師	4
R6.3.27	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5

### イ 診療部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R5.5.19	医薬品安全管理研修会	ファイザー(株) 本角 知隆 氏	4
R5.5.23	医薬品安全管理研修会	薬剤科 石川 綾香	8
R5.6.21	医薬品安全管理研修会	健栄製薬(株) 茨木 一志 氏	18
R5.9.14	医薬品安全管理研修会	薬剤科 浦島 昌久	5
R6.2.29	医薬品安全管理研修会	ノボノルディスク ファーマ(株) 小石 駿人 氏	4
R6.2.20	NST 勉強会	看護部 横田 由紀 管理栄養士 近藤 彩子	114 (研修 録画の自主 視聴含む)
R6.1.22	医療機器安全使用に関する研修 (CT)	放射線科 栗原	2
R6.1.23	医療機器安全使用に関する研修 (MRI)	放射線科 内田	2

ウ リハビリテーション部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R5.4.5	新任職員研修（ICT ①、業務マニュアル、入院生活の流れ等）	和久井千夏子、半田孝之、杉山博紀、笹沼由香、金田俊幸	3
R5.4.6	新任職員研修（補装具、姿勢介助と移乗動作、食事の介助、更衣の介助、接遇）	渡邊澄、伊藤弘通、森まどか、小林咲希、林花澄ほか	11
R5.4.7	新任職員研修（入院～退院までの支援、合同評価・カンファレンスとは、リハで必要な検査・評価の知識、療法記録と書類、電カルシステム、TAK	大森建太、齋藤美帆子、山岸拓真、小野崎桃佳、舟守千瑞子、八木瑞季、篠崎巧ほか	11
R5.4.10	新任職員研修（リスク管理・実践、入院生活の流れ、病棟環境、備品確認・防災対策）	小野上みなみ、向田紗希、原田知晃、長崎隆司、土屋綾子、亀田真弓ほか	3
R5.4.21	新人勉強会（ロコモ）	原田知晃	7
R5.4.25	足部について	池田拓人	4
R5.5.1	新人勉強会（FMA）	駒形孝大	6
R5.5.17	移乗動作講習	向田紗希	4
R5.5.23	新人勉強会（コミュニケーション）	半田孝之	4
R5.5.28	心不全患者に対する負荷量の検討	池田拓人	12
R5.5.26	CAT-R	舟守千瑞子	8
R5.5.29	新人勉強会（FBS）	吉武由梨	4
R5.5.31	患者さんへの触れ方	小材知子、武井智子	6
R5.6.1	急変時対応	金田俊幸	17
R5.6.7	ロコモ研修	半田孝之	6
R5.6.12	気切患者に対する呼吸理学療法評価について /20/26	小野上みなみ	41
R5.6.16	DCD 学術集会伝達講習	石塚有美	15
R5.6.27	新人勉強会（歩行介助）	山岸拓真	4
R5.7.4	移乗動作講習	石井壮	16
R5.7.10	新人勉強会（移乗）	吉武由梨	5
R5.7.20	新人勉強会（車椅子）	林花澄	6
R5.7.21	摂食・嚥下指導（基礎実習）講習会伝達講習	地神風花	8
R5.7.24	超音波画像装置概論	糸井将貴	5
R5.8.14	膝の機能解剖	伊部朋果	6
R5.8.16	初めての通所リハ実践研修会伝達講習	徳淵光康	8
R5.8.18	新人勉強会（IVES）	鷹箸真菜見	3
R5.8.22	膝 OA	鷹箸真菜見	7
R5.8.25	新人勉強会（起居）	向田紗希	5
R5.8.26	構音訓練法（出前講座事前発表）	森まどか	10
R5.8.28	歩行分析	伊藤弘通	6

開催日	内 容	講 師	参加人数
R5.9.8	針刺し対応	金田智子	8
R5.9.22	脊髄損傷について	八木瑞季	4
R5.9.26	新人勉強会（介護保険）	長谷将明	5
R5.9.29	摂食・嚥下指導（基礎実習）講習会伝達講習	地神風花	8
R5.10.19	新人勉強会（FIM）	長谷将明	4
R5.10.20	新人勉強会（NST）	中山瑞恵	6
R5.10.20	運転と地域移動支援研修会伝達講習	小野崎桃桂	8
R5.11.6 /14	ARAT	狩野泰宏	7
R5.11.13	上肢切断・義手について	林志賢（診療部）	26
R5.11.15	股関節の評価について	三浦祐太郎	6
R5.11.17	新人勉強会「診療報酬」	大貫隆康	6
R5.11.24	肩関節について	狩野泰宏、永岡慶人	9
R6.1.29	OT からみたこどもの育ち （小山市教育委員会依頼伝達講習）	和久井千夏子、石塚有美	24

## 工 看護部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R5.4.5	新任職員研修（看護部概要、教育プログラム、看護部紹介、整形外科・小児科・リハ看護、救命救急、個人情報・倫理、感染対策、酸素ボンベの取り扱い）	岩澤麻由美、石川久美子、各部署師長、神田優香利、吉末千夏、平出昌子、山田裕子、岩上裕美、業者	9
R5.4.6	新任職員研修（安全確保、患者確認、補装具紹介、姿勢介助と移乗動作、食事の介助、更衣の介助、避難経路、接遇マナーチェック）	菊地友香、リハ部療法士、中央監視 小池浩継、横田由紀、藤田愛子	8
R5.4.7	新任職員研修（入院から退院までの支援、合同評価、カンファレンス、リハで必要な検査・評価）	リハ部療法士	8
R5.4 月	新任職員研修（電子カルテの基本操作）	小林晃美、電カルWG	2
R5.4. 25、26	看護助手研修「スタンダードプリコーション」	ICT リンクナース	6
R5.5.11	プリセプター研修	高橋智茂子	12
R5.5.16	副師長発表会	副看護師長	34
R5.5.23	薬剤管理「正しい薬剤管理方法」	薬剤師 石川綾香	6
R5.5.25	臨床実習指導者（実習の意義、役割）	廣瀬美生	12
R5.6.1 ～30	F I M（動画視聴）	脳卒中リハ看護認定看護師 岡本淳	5
R5.6.12	第1回看護研究研修「研究計画書の書き方」	国際医療福祉大学 落合佳子先生	16
R5.6.22	退院支援	摂食嚥下障害看護認定看護師 横田由紀	6



開催日	内 容	講 師	参加人数
R5.6.29	在宅支援	MSW 土田紗起子	12
R5.7 月	患者誤認シミュレーション	副看護師長	5
R5.7.14	医療機器の取扱い 「除細動」	日本ストライカー 夏坂航平氏	30
R5.7.26、 28	看護助手研修「認知症患者の対応」	e ラーニング	8
R5.8 月	日常生活機能評価	e ラーニング	83
R5.8 ～9 月	看護補助者体制充実加算に伴う研修 (動画視聴)	4 階病棟看護師 看護助手	4 3
R5.9.27、 29	看護助手研修「感染対策」	ICT リンクナース	8
R5.10.31	高次脳機能障害の看護	脳卒中リハ看護 認定看護師 片山泰司	37
R5.11.21	リーダー研修	三堂地みゆき	8
R5.11.29	第2回看護研究研修「原稿のまとめ方」	国際医療福祉大学 落合佳子先生	18
R6.1.16	伝達講習会	川瀬政昭、大出俊太 郎、増渕寛奈	31
R6.1.23	補装具作成について	脳卒中リハ看護 認定看護師 廣田桃子	37
R6.2.6	事例発表（閲覧研修）	新任看護師	87 (資料閲覧)
R6.3.7	看護研究	講評：国際医療福祉 大学 落合佳子先生	38

## 5 センター内研究発表

### (1) リハビリテーション部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.1.19	大腿前面筋厚と身体機能の関連 ～超音波画像診断装置を用いた検討～	山岸 拓真	25
R6.1.19	Honda 歩行アシストステップモードによる検証 ～脳血管疾患 Br.stage II に対する効果について～	石井 壮	25
R6.1.19	座位保持を中心とした介入により移乗の介助量 軽減につながった症例	保利ちひろ	25
R6.1.19	腰部脊柱管狭窄症により下垂足をきたした一例 ～歩行獲得に向けて装具の再検討～	伊部 朋果	25
R6.1.19	脳性麻痺児に対する介入の一例 ～先を見据えた目標設定～	長谷川 菜生 ※施設部	25
R6.2.19	IVES による治療効果 ～パワーアシストモード併用での立ち座り反復動作 が与える効果について～	須永 和寿	15

## (2) 看護部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.2.6 (閲覧研修)	脳性麻痺児への ADL 向上に向けた取り組み ～トイレ排泄を目指した援助から考える～	井田翠子	87
	幼児期の基本的な生活習慣の形成における看護師 の役割 ～児の特性に着目した環境づくり～	木村久洋	87
	意向相違のある患者、家族への意思決定支援 ～連絡手段がない患者と家族との関わりを通して～	佐藤まどか	87
	失語症患者の排泄動作確立に向けた援助につい て考える ～自分が行った援助方法を振り返って～	岩崎佑美	87
	安心して入院生活ができるための援助 ～不安がある患者との関わりを通して学んだこ と～	関優奈	87
	脳卒中後遺症患者の危険行動に対する介入 ～転倒リスクへのアプローチ～	西塚恵吏奈	87
	段階を踏む退院支援 ～意欲を引き出すアプローチ～	渡邊香奈	87
R6.3.7	排泄自立に向けての援助 ～尿失禁の原因のアセスメントと個別性に合 せたアプローチ～	野中まどか	87
	行動上の問題を示す子どもへの対応 ～施設に PCIT の一部 (CDI) を導入して～	こども療育センター ○横須賀由奈、高橋 智茂子、鈴木幸子、 安徳静鶴、岩上裕美	38
	KYT 基礎 4 ラウンド法実施後の看護師の意識 の変化	4階病棟 ○藤原楓、浅川智子、 廣瀬美生、谷田部昌 枝、小野美佐	38
	褥瘡予防ケアに対する知識向上への取り組み ～問題を元にした講義をおこなって～	5階病棟 ○中山貴代、渡邊哲、 片山泰司、桐内花、 鈴木朝子	38
	有効に活用できる安全対策の表示板の改定 ～特性要因図を活用して～	6階病棟 ○大貫駿希、有馬克 美、小平佳苗、小林 晃美	38

## 6 委員等就任状況

### 星野雄一

No	就任状況	就任年月日
1	栃木県教育支援委員会委員	H25.4.1
2	栃木県教育委員会嘱託医	H30.4.1
3	栃木県障害者福祉推進審議会委員	H25.4.1
4	栃木県障害者差別解消推進委員会副委員長	H28.4.1
5	栃木県国保介護給付費審査委員会委員長	H25.4.1
6	栃木県社会福祉協議会生活資金運営委員会委員	H25.4.1
7	栃木県社会福祉協議会活動推進計画推進委員	H25.4.1

No	就任状況	就任年月日
8	栃木県社会福祉審議会臨時委員	H25.4.1
9	栃木県社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会審査部会員	H25.4.1
10	栃木県保健福祉部特別児童手当障害認定医	H25.4.1
11	栃木県保健福祉部児童扶養手当障害認定医	H25.4.1
12	栃木県保健福祉部非常勤嘱託医	H25.4.1
13	日本運動器科学会 監事	R4.7.8
14	とちぎ健康福祉協会 評議員	R3.6.1
15	栃木県障害児通園施設連合会 顧問	R3.4.1

### 山形 崇倫

No	就任状況	就任年月日
1	自治医科大学 客員教授	R5.4.1
2	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 専門委員	R5.4.1
3	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 科学技術調査員	R5.10.1
4	科学研究費助成事業 審査委員	R4.4.1
5	栃木県保健衛生事業団学術委員	R5.4.1
6	宇都宮市児童相談所のあり方検討懇談会委員	R5.10.1
7	日本小児神経学会 監事	R5.4.1
8	日本遺伝子細胞治療学会 理事	R4.4.1
9	日本 ADHD 学会 常任監事	H30.4.1
10	日本てんかん学会 評議員	H22.4.1
11	日本人類遺伝学会 評議員	R5.11.1
12	社団法人 とちぎ子ども医療支援プロジェクト 代表理事	R5.9.1
13	Brain and Development 編集委員	H24.4.1
14	小児神経学会 SMA マスクリーニング検討委員会	R2.4.1

### 船越 政範

No	就任状況	就任年月日
1	栃木県高次脳機能障害支援連携協議会委員	H29.4.1
2	大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会・広報委員会委員	H29.4.1
3	日本リハビリテーション医学会会則検討委員会委員	R4.4.1
4	日本リハビリテーション医学会代議員	H24.4.1
5	日本リハビリテーション医学会関東地方会幹事	H27.9.1

## 7 その他

### ロコモ啓発活動

(1) ロコモ度テスト器具貸し出し 7件

No	使用日	貸し出し先
1	R5.6.1	今市病院 整形外科
2	R5.7.26 ~ 10.2	高知大学教育研究部医療学系看護学部門
3	R5.10.27	栃木県立リハビリテーションセンター（衛福大講義）
4	R5.11.5	よこかわ地域包括支援センター
5	R5.11.12	田原地域包括支援センター
6	R5.12.19	栃木県庁 健康増進課（ロコモアドバイザーとちぎ養成研修会）
7	R6.1.24	氏家小学校

地方独立行政法人  
栃木県立リハビリテーションセンター

〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町 3337-1  
TEL 028-623-6101  
<https://tochigi-riha.jp/>

お問い合わせ

	TEL	FAX
■ リハビリテーションセンターの全体に関する事 …………… 総務課	028-623-6101	028-623-6151
■ 初診予約に関する事 ……………	028-623-7254	028-623-6125
■ 窓口業務に関する事 …………… 医事課	028-623-6124	028-623-6125
■ 医療センターの利用に関する事 …………… 地域医療連携室	028-623-7051	028-623-7052
■ こども発達支援センターに関する事 …………… 通園療育課	028-623-6128	028-623-6129
■ こども療育センターに関する事 …………… 入所療育課	028-623-6138	028-623-6139
■ 障害者自立訓練センター（駒生園）に関する事 …………… 自立支援課	028-623-6310	028-623-6325